



KUROSHIO

March 2019 Volume 44

鹿児島県立短期大学
地域研究所

■ 巻頭言				
平成最後の「くろしお」巻頭言	学長	野呂 忠秀		1
■ 留学生手記				
鹿児島県短との出会い	南京農業大学	3年	鄧 雪蓉	2
太陽の国鹿児島, ありがとう	南京農業大学	3年	姚 占穩	7
■ 海外研修報告				
2018年度 ハワイ研修を振り返って	文学科		石井英里子	4
英語学習の機会を超えた異文化体験	文学科	1年	下敷領 葵	5
成長を感じたハワイ研修	文学科	1年	伊藤 佑実	6
異文化コミュニケーション (中国語)	文学科		土肥 克己	7
中国研修で感じたこと	文学科	2年	尾曲 祐美	9
初めての海外 ～異文化体験を通して～	商経学科	2年	濱田 光希	9
■ 生涯学習の取り組み				
2018年度 鹿児島県立短期大学 公開講座「食料と環境」	文学科		轟 義昭	11
2018年度 鹿児島県立短期大学 奄美サテライト講座	生活科学科		坂上ちえ子	12
2018年度 伊敷公民館講座 生き生きシニア大学	文学科		轟 義昭	14
■ 地域研究報告 2018年度プロジェクト研究				
<共同プロジェクト>				
中小企業における会計担当者の会計知識・技術に関する調査研究	商経学科		岡村 雄輝	16
	商経学科		宗田 健一	
	鹿児島国際大学		櫛部 幸子	
県内自治体における文化芸術支援のあり方について				
－芸術サービス型 NPO・アーティストの活動実態調査を中心に－	生活科学科		西迫貴美代	17
			かごしまアートネットワーク理事長 丸田 慎吾	
<個人プロジェクト>				
次代を担う奄美大島の若手作家たち	生活科学科		北 一浩	17
県短×知名町 新シマ桑プロジェクト	生活科学科		北 一浩	18
鹿児島県三島村におけるコミュニティ施設の空間特性に関する研究	生活科学科		宍戸 克実	18
航空路線運賃低廉化事業が航空会社の経営や地域住民に与える影響に関する考察	商経学科		宗田 健一	19
北海道における障害児の高校進学	商経学科		田口 康明	19
■ 研究・社会活動報告				
2017年度 鹿児島県立短期大学教員 研究社会活動実績一覧				20

■ 巻頭言

平成最後の「くろしお」巻頭言 学長 野呂 忠秀

「平成」時代の鹿児島県立短期大学

30年続いた「平成」の元号が変わろうとしているこの時期に、県短の歴史をふり返ってみたい。とは言え、県短における私の経験はわずか3年。長年本学で教育と研究に携わってきた教員諸姉諸兄にとっては、迷惑なことに違いない。

ちなみに本学の教員45名の多くは平成時代に採用された方々であり、昭和時代の県短を知っている教員は5名だけではあるが。

平成時代に本学ではさまざまな改革が行われた。受験生世代の増加に呼応して全国の大学で始まった入学定員増・推薦入試導入（平成元年）。また、公開講座開始・生協食堂営業開始（平2）、パジャジャラン大学との交流締結（平3）、インドネシア学術調査・付属図書館増設（平4）、自己評価委員会設置（平5）、学科改組・パジャジャラン大学との研究者交流（平7）、カピオラニコミュニテイカレッジ交流協定締結・学生による授業評価システム導入（平8）、図書貸出システム電算化（平9）、学内LAN運用（平10）、「鹿児島県立短期大学の改革について（田川学長）」取りまとめ（平11）、南京農業大学学術交流協定（平23）等があげられる。このように平成時代は県短の国際化が進んだ時代でもあった。

また大学進学人口の大幅増加による学生のさま変わりもこの平成時代の特徴であるが、これは県短に限ったことではなかった。しかし、県短の組織運営や教育制度の基本は創設期のものを継承してきた。

押し寄せる大学改革の流れ

一方、この平成時代に全国の国公立大学が経験した大学改革の動きには目を見張るものがある。まず挙げられるのは文科省主導で行われた大学の法人化であろう。それまで教授会に委ねられてきた大学運営や教育の舵取りは、学長のトップマネジメントのもとで理事会や経営協議会が行うこととなった。ここで学長は全学的な視点で中期目標・中期計画を定めて大学を運営するが、その成果は社会的な評価を受けるとともに、その評価結果は運営交付金の増減となって研究者に及ぶようになった。

現在、84校ある国立大学のすべてと、89校ある公立大学の9割が、平成時代に大学法人と

なっており、人事や財務など学内資源の分配や活用には社会の変化を先取りした学長のトップマネジメントが戦略的に行うこととなった。

法人化の動きは短期大学にも及んだが、この平成の平成時代に全国の短期大学が経験したことは、四年制大学への移行であった。さらには、今始まろうとする、専門学校の特長短大化の動きは短大の守備範囲が大きく変わること、もはや昭和時代の短大が果たした社会的な役割を懐かしく思うだけでは、社会に受け入れられないものとなる。

平成以後の大学（短大）が歩むべき方向性

日本の大学教育は2040年（今から20年後）を見据えて、いま大きく方向転換をしようとしている。

この2040年とは平成30年に生まれた子供が大学を卒業するタイミングだが、この間に社会は大きく変化し、短大や大学も

- (1) SDGs（持続可能な開発目標：全ての人が必要な教育をうけ、その能力を最大限に発揮でき、平和と豊かさを享受できる社会）
- (2) Society 5.0（第四次産業革命：現時点では想像もつかない仕事に従事できる幅広い知識や、新しいアイデアや構想を生み出す）
- (3) 人生百年時代（生涯を通じて切れ目無く学び、全ての人が活躍し続けられる社会）
- (4) グローバル化（独自の社会のあり方や文化を踏まえ、多様性を受け入れる社会システムの構築）
- (5) 地方創生（知識集約型経済を活かした地方拠点の早出と、個人の価値観を尊重する生活環境を提供）

に主体的に対応することが求められている。

地域に貢献し県民が納得する県立大学

平成時代の県短は、設置者である県と協力して、地域の高等教育に地道に貢献してきた。しかし、この30年間に他の国公立大学が大学改革によって手に入れたものとの隔たりは大きい。

明治時代に藩校が旧制高校に姿を変え、戦後昭和時代に新生大学や短大が産声をあげ、平成時代に高校生の二人に一人が大学や短大に進学するようになったことではあるが、鹿児島県の大学教育にとって必要なことは、県民の期待に応え県の将来ビジョンを学問研究面で支援する大学に向けたダイナミックな高等教育の改革こそが、新たな時代の幕開けに望まれる。

■ 留学生手記

鹿児島県短との出会い 南京農業大学3年 鄧 雪蓉（とうせつよう）

3月末に日本に初めて来ました。飛行機を降りた時、青い空を見て、わー、きっとこれが「日本晴れ」というんだと思いました。「やっと日本に来た。これから半年間頑張るぞ。」とひそかに気合をいれました。

鹿児島は私にとって全くの未知の世界でした。だからこそ、私は強くこの町に惹かれました。映画の中でしか見たことのない日本にじかに触れられて、ドキドキする体験を毎日しています。実は来日前に心配もしていました。例えば、日本語をうまく話せるか、日本の生活習慣に慣れられるか、日本人とスムーズに付き合えるか、などなど様々な疑問を抱えていました。しかし、時間が経つにつれて、これらはすべて杞憂となったのです。

日本人はとても優しく、マナーが良いのです。大学の友達には私たちに、ゴミの分類方法、バスに乗る方法、下水管の水詰まりの対策法など、色々教えてくれました。先生もいつも困ったことがあったら、いつでも聞いてねと私たちのことを気にかけてくださっています。ここで面白いことを1つ紹介します。来日直後の時、人民元を日本円にしたいと思い、どこでできるかわからずに付近の交番に聞きに行きました。実はその時、交番は中国で言う警察局ということが分かりませんでした。私のいろいろな質問を聞いた後、警察官は書類で調べたり、銀行に電話を掛けたりして熱心の手伝ってくれました。日本人はとても親切だと改めて思いました。

勉強の面では、先生はいつも「何かわからないことがあったら、なんでもいつでも聞いてください」とおっしゃいます。だいたいの授業にはついて行くことができますが、たまに難しい授業で理解しにくいところもあります。そして、県短にきて中国と日本の授業のスタイルの違いを感じました。日本の「ゼミ」という授業は中国にはありません。ゼミでは、先生との交流が多くなり、さまざまな問題や疑問について、直接質問や議論などを通して学ぶことができ、効率のいい勉強方法だなと思いました。私も楊先生のゼミでいろいろ勉強しました。最も印象的なのは論文の読み方と分析の発表です。これは私の卒業論文の作成にも役に立ちました。また、西原先生の社会学も私に大きな影響を与えました。先生は第一回の授業で、社会学

の目的は無知と偏見を越えていくことだとおっしゃいました。先生のおっしゃる通り、世界は運命共同体で、世界平和は各国の人々がお互いを尊重し、助け合ってこそ実現できることだと思います。現在、日本と中国の友好関係を維持するには両国の人々がともに努力することが不可欠だと思います。

学校の勉強以外でも日々学ぶことが多いです。私はコンビニでアルバイトをしています。アルバイトを通じて、日本人のまじめさと緻密さに驚きました。日本人は接客の面において、全てがお客様優先で、とても優しく、完璧さを求めます。お店のマネージャーやほかのスタッフにたくさんの迷惑をかけたかもしれませんが、アルバイトでたくさんのお話を学びました。

もしも私がここ鹿児島で少しでも成長したのであれば、それはここで出会ったみなさんのおかげだと思います。いつもお世話になるばかりで、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。チャンスがあれば、きっとまた日本に来ます。

太陽の国鹿児島，ありがとう
南京農業大学3年 姚 占穩（ようせんおん）

私は南京農業大学の三年生で，専攻は日本語です。今学期は鹿児島県立短期大学に交換留学生として来ました。初めての日本で，最初は緊張あり興奮ありの毎日でしたが，やはり日本に来てよかったです，今は心からそう思うようになりました。先生と日本人の友達はいつも手伝ってくださいます。来てすぐに市役所で手続きをしなければならぬのですが，学生課の方が車で市役所に連れて行ってくださったおかげで，手続きはスムーズにできました。普段，土肥先生と楊先生はいつも「生活に何か困ったことがあるか」と聞いてくださいます。先生方がいらっしゃるのです，どんな問題でもすぐに解決できます。クラスメートも優しいです。みんなの笑顔は太陽のように暖かいです。親切な先生と可愛いクラスメートは私の生活に不可欠な存在になっています。

私は食べるのが大好きで，クラスメートと料理の話をしたりします。みんな中華料理に興味があるようで，中華料理の中でもみんながよく知っているのは麻婆豆腐です。そして，私はラーメンが好きです。日本のラーメンは中国と違って，味が濃厚で，ちょっと塩辛いです。この間友達と指宿へ遊びに行きました。ある店で親子丼を食べました。とても美味しかったです。今，親子丼も大好きです。そして，マグロも好きです。クリームのような味わいです。日本料理は中華料理ほど種類が多くないですが，独特の個性があって好きです。

日本では勉強だけでなく，様々な活動があります。私は国際交流サークルに参加しました。国際交流のみなさんと一緒にお昼ご飯を食べます。それだけでなく，鹿児島大学の国際交流サークルとの交流会もあります。交流会でベトナムの留学生と知り合って，面白いことに彼は普段中国人と一緒にゲームをするので，中国語の悪い言葉をよく知っています。しかもそれは中国語の方言で，とても面白いです。みんな本当に楽しい人たちばかりです。国際交流の活動を通じて日本のいろんなことを知るようになりました。

また，日本の着物は有名で，ずっと着物に憧れていて，いつか着たいと思っていました。したら，木戸先生が無料の着付け教室があると教えてくださり，連れて行ってくださいまし

た。着物の着付けは本当に難しく，繰り返し三回も練習しましたが，できたのかどうかとても自信がなかったです。しかし，木戸先生に励ましていただいている間，だんだん自信がわいてきて，めげずに練習に励みました。最後に私の着物姿を「よく似合っている」と褒めていただいていた嬉しかったです。木戸先生との着物でのツーショットは，私にとって鹿児島での楽しく美しい思い出の一枚となりました。

また，鹿児島の中学校の訪問も印象に残りました。県短の二年生の教職を取っている学生は二週間の教育実習があります。この間，日本の中学校を見てみないかと楊先生に誘われて，中学への教育実習訪問に同行しました。私たちは道徳の授業を見学しました。中学生は活発で，みんな自発的に質問に答えていました。豊かな想像力で面白おかしく質問に答える中学生もいて，教室の雰囲気は明るかったです。帰りに，楊先生と授業についての感想などいろいろ話して，それも勉強になりました。とても充実した一日でした。

私の友達は早稲田大学に留学しているので，週末に東京に会いに行きました。友達と一緒に鎌倉と東京ディズニーランドに行きました。東京は中国人が多くてびっくりしました。楽しかったですが，東京より鹿児島が好きです。鹿児島は静かでのんびりしています。私にはとても心地よいです。もうすぐ中国に帰りますが，日本を離れるのがちょっとつらいです。中国に帰っても，日本で暮らしたことを忘れないと思います。日本での日々は私にとって人生の美しい思い出です。みなさん，本当にありがとうございました。

■ 海外研修報告

2018年度ハワイ研修を振り返って 文学科 石井 英里子

2018年度異文化コミュニケーション（英語）の概要は以下の通りである。

期 間：2018年9月5日（水）

～9月19日（水）

研 修 先：ハワイ大学付属カピオラニ・
コミュニティ・カレッジ
University of Hawaii,
Kapi 'olani Community-
College (KCC)

参加学生：計16名

文学科英語英文学専攻1年11名
生活科学科食物栄養専攻1年1名
生活科学科生活科学専攻1年2名
商経学科経済専攻1年2名

引 率 者：石井 英里子

（文学科英語英文学専攻准教授）

亀井 勇統

（生活科学科食物栄養専攻教授）

本年度は、全日程15日間、8日間のハワイ文化研修プログラムを計画し16名が参加した。これまで同様、KCCのプログラムコーディネーターである佐藤さをり氏、ヴィンス・岡田氏のサポートにより、ハワイの文化学習を中心としたプログラム構成となった。従来のプログラムに加えて、本年度は新しい取り組みとしてEnglish Reflectionというプログラムや、例年のフラ体験プログラムの代わりに、ヨガ体験プログラムやStudy Abroad and Careerという授業が新しいプログラムが取り入れられ、加えてKCC初の試みとして学生のプレゼンテーションはラジオ番組形式で行われた。

新しい取り組みとして取り入れられたEnglish Reflectionでは、プログラム初期・中期・終盤でハワイ研修中の各自の気づきや感情を振り返る機会を設けることによって、学生の学びをより深いものにする工夫がなされていた。またヨガのプログラムでは、9月のおとめ座新月が訪れることにちなんで、デトックスをテーマにさまざまな排出を促すヨガのポーズに取り組み、心身ともにスッキリした後に、各自の目標を宣言するデklarレーションを行った。ヨガが初めての学生も多くいたが、すべて英語によるイン

ストラクションにも関わらず、楽しんで取り組んでいたようであった。Study Abroad and Careerでは、留学経験者の講師の話を中心に、各自のライフヒストリーチャートを描き、発表しあった。自分の過去の出来事を打ち明け、我々教員も含めた他の参加者の過去の話を聞くことによって、学生たちは様々な思いを抱いたようであった。

私自身、16名が無事に帰国するまで気が休まることはなかったというのが正直なところであるが、無事にプログラムを終了できたのは、KCC関係者をはじめ、研修に参加した学生、また、参加学生はとて素直で協力的であり、また、ハワイ研修に昨年度も参加されていた亀井勇統先生と一緒に引率であったため、彼の協力もあり、大きな問題も特になくプログラムを無事終了することが出来た。

参加学生達は帰国後、研修のまとめとして、ラジオショー形式のプレゼンテーションと各自のリフレクションを発表する報告会を10月3日（水）に本学視聴覚室で行った。ハワイ研修参加学生全員、ハワイ研修前と比べると、自分の思いや考えを言葉や態度で表現することに対して、とても積極的になっている姿が顕著にみられた。ハワイ研修に参加しなかった英語英文学専攻の1年生もこの報告会に参加し、彼女たちの変化に大変驚いた様子であった。お忙しい中先生方にも参加して頂き、質疑応答では、多くのコメントや質問をいただいた。この場で感謝申し上げたい。

研修日程

9月5日	(水)	鹿児島空港集合(10:45 KE786 12:00発) → 韓国仁川空港(13:35着) トランジットツアー(景福宮・東大門市場) → 仁川空港(KE053 19:45発) → ホノルル国際空港(10:50着)
9月6日	(木)	オープニングセレモニー&オリエンテーション English (1) English Reflection (1) English (2): Kamehameha V. Judiciary History Center Mock Trial Practice
9月7日	(金)	English (3) Visit: State Capital & Iolani Palace Tour Walk to Kamehameha V Judiciary History Center Visit & Mock Trial: Kamehameha V Judiciary History Center
9月8日	(土)	English (4): Interview Workshop at KCC Farmer's Market Visit: Pearl Harbor USS Missouri Tour
9月9日	(日)	Self-Study Day
9月10日	(月)	English (5) English Reflection (2) Ho'okipa Me Ke Aloha Workshop
9月11日	(火)	English (6) Yoga and Lifestyle
9月12日	(水)	English (7) Lecture: Study Abroad and Career
9月13日	(木)	English (8) Presentation Preparation English Reflection (3) Haku Lei Making Workshop

9月14日	(金)	English (9): Final Presentation Closing Ceremony
9月15日	(土)	終日自由
9月16日	(日)	終日自由
9月17日	(月)	ホノルル国際空港発(KE054 13:20)
9月18日	(火)	仁川空港着(17:45)
9月19日	(水)	仁川空港発(KE785 9:20)→鹿児島空港着(10:55)

英語学習の機会を超えた異文化体験 文学科1年 下敷領 葵

今回のハワイ研修で学んだことは英語だけではなく、街でハワイの方と話すときや、カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの授業では、英語を聴いて話しました。なので、英語力が伸びました。自分が今まで学んできた英語を使い、会話ができたときは、自信につながり、もっと英語を学習したいという意欲向上につながりました。しかし、私は現地でハワイの文化や歴史などたくさんの異文化交流する機会があり、貴重な体験をたくさん経験することができました。

カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの2日目の課外授業でハワイ州最高裁判所を訪問し、歴史的な劇を演じました。その裁判のきっかけがハワイの原住民の方とイギリスからの移住者とで考え方に大きな差があったということを知りました。ハワイの人々は古来より、住んでいるエリアすべてをみんなで使っていて、「所有」という概念がありませんでした。19世紀、ミークはハワイの土地を買いましたが、原住民のオニがその土地で牛に草を食べさせていました。それを見て、激怒したミークはオニの牛たちを売ってしまいます。これに怒ったオニはミークを訴え、裁判を起しました。結果は、ミークの勝訴となりました。私はこの裁判の劇を通じて、ハワイの方は古来より食べ物も役割も土地もみんなでシェアしていたことに驚きました。こんなに平和的な考え方で本当に社会が成り立っていたなんて素晴らしいことなんだと思いました。しかし、移住者たちが土地を所有してしまったことでその平和的で寛大なこの考え方はただの歴史の一部になってしまっているのではないのではないかと不安になりました。現在のハワイでは人々が、土地を「所有」しているからです。しかし、ハワイの方々と接するうちにその概念は今でも生きていると感じました。ハワイの方々には、みんな優しくてわからないことや、課外活動での質問に対して快く答えてくださったり、彼らの文化をシェアしてくださったり、私たちは大きな家族なのではないかと思うくらいでした。

3日目の戦艦ミズーリ記念館への訪問が課外活動の中で一番印象に残っていることです。戦艦ミズーリと日本は密接な関係があり、様々な出来事において日本との関係が複雑に絡み合っ

Haku Lei Making Workshop



Closing Ceremony



ていることを知りました。1945年の4月11日、戦艦ミズーリに一機の零戦が衝突しました。その零戦に乗っていた特攻隊員は衝突の後亡くなりましたが、戦艦ミズーリの艦長が彼のための海軍葬を執り行おうと乗務員たちに指示しました。乗務員たちは先ほどまで自分たちの命を狙っていた敵のために戦艦をあげての葬儀に反対しましたが、艦長は彼の国のために命をかけて戦った行為は尊敬に値すると彼を称賛し、乗務員たちを説得しました。乗務員たちは彼のために夜を徹してひと針ひと針縫って旭日旗を作りました。これだけでも感動できるのですが、実は艦長はこの出来事の7年前に兄を日本との戦で亡くされていたことを後から知りました。敵に対してこのように寛大なふるまいは容易にできるものではなく、その上自分の大切な人を奪われた憎しみではなく大きな愛を持って敵に対して敬意を称したことは本当に素晴らしいことだと思いました。私は、大事な家族が奪われたら、愛や相手を尊敬する気持ちより憎しみに変わった悲しみが勝り、彼のような愛にあふれたふるまいはきっとできないと思います。しかし、悲しみや苦しみ、憎しみからは新たな憎しみを生み出してしまい、負のスパイラルに陥りやすく、その負のスパイラルを断ち切り、傷ついた心を人間らしい心をよみがえらせた彼のふるまいを私たちは見習うべきだと考えました。鹿児島では、元特攻基地で現在は平和祈念館や歴史資料館となっている場所が二つあります。私は祖母が鹿屋に住んでいるということもあり、よく歴史資料館に足を運んでいましたが、この話を知りませんでした。鹿児島に住んでいる人たちにもっとこの話を知ってもらいたいです。

ハワイでの研修は、周りの方々にたくさんの支援をいただきながら、たくさんのことを学べてとても貴重な経験になりました。私も、ハワイの方のような大きな愛を持ってたくさんの人と接したいです。

成長を感じたハワイ研修 文学科1年 伊藤 佑実

約9時間のフライトを眠って過ごした私が次に目を覚ました時には、ハワイ島が上空から見える距離にまであった。ここまで来たのだというドキドキ感と、少しの緊張を胸に飛行機から

降りると、綺麗な青空、日本とは違うカラッとした空気がとても心地よく感じた。荷物を預け、ホテルまでバスに乗りながらハワイの街を眺めていた。見上げるほどの大きなビルや、ヤシの木、洒落なお店、人がきらきらと目に映った。2週間、この憧れのハワイで過ごせる喜びが一気に込みあがった瞬間だった。

そして、翌日からカピオラニコミュニティーカレッジでの研修が始まった。カレッジの先生の最初のあいさつで私がハワイ研修の中で克服したい一つである「日本人はシャイで、間違いを怖がる」ということを指摘され、絶対に恥ずかしがらない、怖がらないと強く決めたものの、はじめはなかなか上手くいかなかった。先生からの質問に、自分のこの答え方はあっているのか、間違えたら恥ずかしいな、という気持ちが頭をよぎり自信をもって手を挙げられなかった。そんな自分にもどかしく感じつつも、この研修が終わるころには自分から話しかけるようになりたい、と強く決めた。一日の授業が終わり、夜のご飯を買うため、友人らとお店へと向かった。途中道に迷って身振り手振りで行きたいところを地元の人に聞きつつ、やっとのことで目的のお店へとたどり着くことができた。日本で見慣れているものがなく、パンとジュースを大量に買ったのを覚えている。お風呂の際も、浴槽はなく1人は入れるくらいのスペースでこれも日本との違いなのか、と感じた。

最初は初めてのことが多く、先生の話す英語についていこうと必死になって聞いていた。友だちと、言われたことを確認し合ったり、メモを取ったり、これで英語が少しでも上達するのだろうかと不安だった。しかし、聞いているうちに段々と先生の話していることが自然に聞き取れるようになった。そして現地の人との会話もできるようになった。特に私がうれしかったのは、あるスーパーマーケットで会計の際に店員の男性から英語で話しかけられて会話ができたことだった。ハワイに来たばかりのころには考えられないようなことだったと思う。その後も、ハワイ観光でビーチや、いろいろなお店でも現地の人との会話の中で、自分の英語が少しずつ上達していくのを感じた。そして、ハワイでの最後の研修の日、英語でのラジオショーの発表。緊張はもちろんしたが、ハワイで学んだこと、自分たちの英語の上達を見せることができた。

このハワイでの研修で私の克服したかった、

「恥ずかしがらない、間違いを怖がらない」というのは達成できたと思う。カレッジでの先生たちとの会話、ハワイ生活での現地の人との会話が自分にとってとてもいい刺激になった。間違いをしても、相手は理解しようと話を続けてくれたし、恥ずかしがって会話をしないの方が恥ずかしいことなのだ、と強く感じた。長いようでとても早く過ぎてしまった2週間のハワイ研修は大変なこともたくさんあった。水道が詰まってしまう、直してもらったり、友人の一人は中国人観光客に話しかけられて対応に追われたり、ご飯のメニューがパンばかりになってしまったこともあった。それでも、楽しいという気持ちの方が大きかった。何よりも現地の人の温かさにとっても助けられた。身振り手振りのぎこちない英語にも英語で答えてくれたり、気さくに「調子はどう？」と話しかけてくれたり、とても居心地が良かった。2週間という時間はとても短かった。それでもこの短い中でハワイの文化や人々、英語に触れ合え濃厚な時間を過ごした。もちろん、日本での生活で自分がどれだけ親の作ってくれた食事や日々の生活のありがたさも感じられた。私にとってこのハワイ研修は英語の上達はもちろん自分自身を成長させてくれる研修になった。



異文化コミュニケーション（中国語） 文学科 土肥 克己

本年度の異文化コミュニケーション（中国語）（以下、中国研修と略す）を以下の内容で実施した。

研修先：中国南京農業大学国際教育学院

研修期間：平成30年3月3日（土）～

3月14日（水）（12日間）

参加学生：文学科日本語日本文学専攻8名、

文学科英語英文学専攻1名、

商経学科経営情報専攻3名

以上12名（全員1年生）

引率者：土肥 克己（文学科教授）

後方支援：楊 虹（文学科准教授）

今回の中国研修は従来とは異なるものになった。実施時期が例年の夏から春に変わったのはもちろんだが、日本の他大学と合同での実施となった。2004年以来単独で11回の研修を重ねてきた本学にとって初めての試みである。春のこの時期はもともと宮崎大学が研修を続けてきた。2006年度の第1回を除き、第2回から第9回の2017年度まで2月中旬から3月中旬の間で8～15日間の研修を実施している。この研修に他の大学が合流するようになったのは2016年度で、南京農業大学の協定校である筑波大学と千葉大学が新たに参加した。そして2017年度には本学も参加を決めることになった。



合同で実施するに至った経緯を簡単に記すと次のようになる。近年、学生の参加者がなかなか集まらず、2011～16年は一桁にとどまり、年によっては研修を中止せざるをえなかった。募集が不調な原因ははっきりしないが、2012年に中国で比較的大きな反日活動があり、その報

道が学生や保護者に強い印象を残したことは十分に予想される。2017年度も参加応募者が少数にとどまると予想されたため、単独での実施を断念し、少人数でも実施可能な春の研修に合流することが決定された。実際には最終的な参加者が12名となり、予想よりもかなり多い人数となったが、当初の計画どおり春の研修に合流することになった。研修全体の規模は学生が本学から12名のほか、宮崎大学11名、筑波大学3名、千葉大学2名の計28名である。さらに引率教員として宮崎大学から1名、そして本学からはわたしが加わった。こうしてこれまでとは異なる雰囲気のなかで12日間の研修が始まった。

今回の研修は内容的には本学の従来の研修内容と大きくは変わらない。中国語学習、文化体験・見学、中国人学生との交流を3つの大きな柱にすえて、それを組み合わせながら多彩なプログラムを用意してある。このプログラムを実行するには南京農業大学の学生ボランティアの協力が欠かせない。中国語学習や文化体験・見学は授業担当者の指示があるものの、中国人学生ボランティアが授業担当者と日本人学生との間に介在しながら進行するのが普通である。学生ボランティアは通訳や補足説明を担いながら日本人学生ひとりひとりと直に接してくれるので、日本人学生にとっては研修期間を通じてもっとも近い存在となっている。短期間の研修では語学や文化を深く理解するにはあまりに短く、日中の学生どうしの直接的なやりとりのなかで生まれる友情がこの研修では大きな意味を持っている。今回も学生ボランティアの親身なおもてなしのおかげで、日本人学生たちは中国語の宿題に苦しみながらも楽しい日々を送ることができたように見える。

すこし気になることといえば、学生ボラン

ティアの規模が大きくなったことである。日本人学生が28人なのでそれに対応して人数が増えたともいえるが、人数よりも所属する専攻のほうに気になる。英語専攻のボランティアが4割を占め、そうしたボランティアとは交流にどうしても限界があるのではないかと。ただ今回は宮崎、筑波、千葉の各大学から多様な学部の年齢もまちまちな学生が参加していて、本学学生よりも活動範囲が広く、また大人びている。なかには英語が得意な人もいる。このような日本人参加学生の構成が、中国人学生ボランティアの募集方針にも影響しているかもしれない。これまでの本学独自の研修では学生ボランティアといえば日本語専攻の学生と決まっていたので、ややとまどいを感じてしまう。

学生ボランティアの規模拡大は南京農業大学の国際交流部門再編も関係しているように思われる。もともと国際交流を一元的に担ってきた国際教育学院から教員の国際交流業務を分離して国際合作与交流処とし、国際教育学院は学生交流に特化された。おそらく大学全体の国際交流事業拡大とそれに見合った予算規模を反映しているのだろうが、今回の研修でも教職員の動員数や式典の演出が大掛かりになったと感じる。外国の大学から学生を受け入れるということだけで満足しているうちは問題ないが、将来的にはより専門的な研修を志向していくものと思われ、本学の研修のような初歩的な友好交流をいつまで続けるのか気になるところである。

なにはともあれ12名の学生が無事研修を終えられてほっとしている。彼女たちはそれぞれに中国や中国人への印象を新たにしたりはずだし、それはきっといい方向への変化だったと思う。中国を理解する人が増えるのは本当にうれしいことだ。

研修日程

期日	曜日	予定
3.3	土	鹿児島→上海浦東空港 (MU762, 13:20→14:25), 上海→南京 (高速バス利用)
3.4	日	キャンパス見学
3.5	月	歓迎式, 中国語授業 1
3.6	火	中国・南京概況, 中国語授業 2
3.7	水	篆刻, 中国語授業 3
3.8	木	南農大日本語専攻の授業に参加, 太極拳, 日本語サークルでの交流
3.9	金	中国語授業 4, 水墨画・書道, 夫子廟見学
3.10	土	明孝陵見学, 南農大日本語専攻の学生との交流
3.11	日	中山陵見学, 中国語授業 5
3.12	月	南京博物院見学, 修了式
3.13	火	南京→上海 (高速バス利用), 豫園, 黄浦公園, 南京路見学
3.14	水	上海浦東空港→鹿児島 (MU761, 9:50→12:30)

中国研修で感じたこと 文学科2年 尾曲 祐美

私が中国短期研修に参加したいと思うようになったきっかけは、友人と一緒に行かないかと言われたことである。私は、もともと中国の歴史や建物に興味があったので参加しようと思った。高校生の頃から資料集をみると、実際に観て迫力を感じたいと思っていた。さらに大学の中国語の講義では、映像で中国文化や街並みを紹介されており、面白いなと思っていた。友人が勧誘してきたときが、ちょうど中国への関心が強まっていたときであった。

私は中国で大きく分けて3つのことを感じた。1つ目は、規模が大きいということを感じた。中国は国土も人口も日本の何倍もするほど大きいということもあり、多くのものが日本と比べて規模が大きかった。例えば、飛行場である。飛行場が大きいので、飛行機から入り口までバスで移動するのである。これには、着いて早々驚いた。他にも、研修先の南京農業大学が広く、一日に何キロも歩く必要があった。初日に筋肉痛になったり、大学内を覚えられなかったり大変でした。

2つ目は、勉強への熱が高いことを感じた。研修中、南京農業大学の学生のボランティアの方々がいた。皆さん、母国語以外に日本語か英語を学んでいた。そのレベルが高かった。日常会話ができるほどである。最初、私が中国語を話せなくて、会話ができるだろうかと不安があったが、その不安は過ぎていくうちに無くなった。ボランティアの方々以外にも日本語専攻の方との交流会でも会話が弾むこともあり、中国の学生は、勉強に熱心に励んでいるのだなと思った。他にも、夜に大学生のボランティアの方々と出かけることがあった。その帰り、21時くらいにときに大学を帰った。外はすっかり暗くなっていたが、校舎には明かりが付き、自習なのか何人かの学生が勉強していて見習っていかないといけないと思った。

3つ目は、親切な人が多いと感じた。中国に行く前の想像は、反日の考えの人が中国には多いと思っていた。歴史的なものや現代の領土問題など友好的ではない人が多いのではないかと考えていたからだ。実際には、運がよかったのか親切な人ばかりだった。私が1番親切だと感じたのは、水餃子屋さんの方である。友人と4人だけで行ったのだが、4人とも注文の仕方と

か、中国のお店での過ごし方がわからなくて困惑しているときに助けられました。私たちが上手く中国語を話せなくても、ジェスチャーをしてくれたり、紙に数字を書いて確認をしてくれたりといくつかの助けがあった。そのおかげでも美味しい水餃子を食べることができた。このことが今回の研修での私の1番の思い出である。

今回の研修では、多くのことを学ぶことができた。中国語の講義での言語の勉強、観光や生活していく中で異文化の体験、異国での人との交流などただ日本で過ごすだけでは経験できなかったことができた。わたしにとってのこれからの人生の中で役立つことだと考える。今回の研修に参加してよかったと思う。他にも多くのことに積極的に経験していけるようにしたいと考えています。

初めての海外～異文化体験を通して～ 商経学科2年 濱田 光希

私は入学当初から本校の国際交流の取り組みの1つである異文化コミュニケーションに興味を抱いていた。実際にガイダンスに参加したところ、日本と密接な関係にある中国の研修内容にとっても関心を持ち参加を決めた。この異文化体験を通して中国の文化や歴史を学ぶと同時に、日本がもつ素晴らしさや魅力を再発見できると感じた。また1年間学んだ中国語の学習の成果を現地で発揮できる貴重な機会だと考えた。

12日間の中国言語文化短期研修を終え、学び感じたことが大きく分けて3つある。

1つ目に中国人の印象である。偽造疑惑や異物混入など何かと世間を騒がす中国。日本のメディアも中国の悪い面ばかりを報道しているため、私自身、この短期研修に参加するまでは中国に対してあまり良い印象を持ってはいなかった。しかし実際に参加してみると、研修中には私たち日本人学生に対して親切に接してくれ、別れの際はボランティアの方々から沢山の手作りやプレゼントをいただいた。12日間という短い期間だったのにも関わらず、中国人学生からの「おもてなし」に触れ、また日本人への親近感や愛着心を強く感じる事ができた。

2つ目に文化の違いである。今回の研修の中では伝統的な文化である「太極拳」「中国画」「書道」「彫刻」などを実際に体験したり、南京で有

有名な観光スポットにボランティアの方々や足を運んだりし、中国の雄大な歴史と広大な国土を自ら体感することができた。また食に関しても味付けや食事のスタイル、マナーも異なり、新鮮に感じた。日本と中国は、歴史、価値観、人々の生活習慣や考え方など様々な面で違いが大きく、その分のカルチャーショックも想像以上に大きかった。しかし日本語専攻の学生さんたちとの交流や現地の方々とのコミュニケーションを通して中国の好い面を見ることができ、自分の目に写る範囲ではあるが中国の現実を知ること、日本との違いを受け入れる姿勢が生まれてくると感じた。

3つ目に外国語の重要性である。研修中は5回にわたる語学授業が行われた。授業中に飛び交う言語は英語か中国語というスキルが高く、グローバルな時間であった。しかしながら街に出れば英語や中国語が上手く伝わらず悪戦苦闘であった。母語であれば自分の言いたいことや気持ちが自由に表現できる。だが外国語ではそれがなかなかできず、細かなニュアンスを相手に伝えられないもどかしさがあった。自分の言語能力の低さを痛感するとともに、英語や中国語をはじめ世界の共通語を習得することは、現代社会が急速にグローバル化していく中で海外の方とコミュニケーションをとる以上、必要不可欠なことだと感じた。

異文化コミュニケーションを通して、自身が予想した以上に日本と国情や習慣などが違うことが多かった。しかし自国1つの文化や言葉、モノの考え方や習慣だけでなく、海外の異なった文化や価値観に触れ理解することは、自分の視野を広げ、思考力を深める貴重な機会となった。また海外に目を向けることで日本の素晴らしさを改めて感じることもできた。今後も短大生活の中で何事にもチャレンジ精神を持ち、新たな可能性を見出していきたい。そして今回の国際交流をはじめ、学び感じたことはこれからの就職活動や社会生活で生かしたいと思う。



■ 生涯学習の取り組み

2018年度鹿児島県立短期大学公開講座（鹿児島県民大学連携講座）「食料と環境」 文学科 轟 義昭

2018年度の公開講座は生活科学科の教員が中心となって実施された（コーディネーター：亀井教授）。講師陣は日本を取り巻く食料事情が生産現場と輸出入の双方において厳しい状況にあることを認識された上で、「食料と環境」というテーマで日本における農業と水産業に焦点を当てて講演された。講座は4月14日から6月16日までの毎週土曜日の午後にわたり、全8回実施された。受講登録者数25名、延べ受講者数は152名であった。なお、6回以上受講した20名には最終回に修了証が授与された。

◆各講座の担当者とテーマは次の表のとおり。

回	実施日	担当者（所属）	テーマ
1	4/14	染谷 孝（佐賀大学農学部）	テーマ生ごみの資源化と食資源循環
2	4/21	前田 広人（鹿児島大学水産学部）	赤潮とは何か
3	5/12	木下 朋美（生活科学科）	輸出拡大を目指す鹿児島茶
4	5/19	茅田 司（生活科学科）	“かごしま黒豚”ってどんな豚肉？ ー輸入・国産豚（白豚）とかごしま黒豚の肉質の違いー
5	5/26	亀井 勇統（生活科学科）	海産物の機能性
6	6/ 2	山下 三香子（生活科学科）	地球温暖化・食料自給率・和食
7	6/ 9	野呂 忠秀（学長）	鹿児島の養殖漁業を支える東シナ海（流れ藻のはなし）
8	6/16	亀井 勇統（生活科学科）	ノリ養殖の問題と対策

◆各講師の講座内容は次のとおり。

第3回 木下 朋美

鹿児島茶の特色や茶の製造方法、茶の淹れ方と抽出成分、ペットボトル茶と急須で淹れる茶の違い、夏に最適な水出し茶などを説明し、水出し茶の試飲を提供した。また鹿児島県の奨励品種の香気特性についての官能評価結果や、海外輸出向けの萎凋香緑茶の製品開発と海外における官能評価結果等について解説した。

第4回 多田 司

かごしま黒豚は、その肉の美味しさが全国的に高く評価されているが、美味しさを裏付ける科学的基盤情報の整備が十分であるとは言えない。そこで豚肉の肉質に関する詳細な調査と人を対象とした官能評価試験の研究成果を紹介し、黒豚と一般的な白豚肉ならびに輸入豚肉との肉質の差異について解説した。

第5回 亀井 勇統

海産物からこれまでに発見・開発されてきた医薬、農薬、化粧品、研究試薬、土壌改良材、サプリメント等の実例と開発の経緯について解説した。また、医食同源が叫ばれている中、奄美群島を含む延べ119地点の日本沿岸から採取した海藻類の中で見いだされた神経細胞活性化物質等の有用な成分等についても紹介した。

第6回 山下 三香子

地球温暖化は人間による影響が極めて高く、世界平均気温とCO₂累積総排出量とがほぼ比例関係にあり、海ではサンゴ礁の白化、海の世界食物連鎖異変がみられる。我が国の食物自給率を見ると40%以下で、輸送燃料のかかる輸入に頼っている。自給率対策として、米粉の活用や和食の重要性に繋げた。エコクッキングの試食を行った。

第7回 野呂 忠秀

鹿児島県沿岸の流れ藻ホンダワラは、ブリの産卵生育場所となっている。この流れ藻ホンダワラの起源は、奄美や沖縄などの南西諸島と考えられていたが、近年は中国浙江省で繁茂したものが流れ藻となって東シナ海を漂流することが分かった。このブリ稚魚を採捕し生簀で養殖してできたのがハマチである。

第8回 亀井 勇統

有明海のアサリやタイラギ等の漁業資源の激減の原因が何に起因しているのか、その原因の可能性についてこれまでの有明海にまつわる開発事業を含めながら経緯について解説した。また、有明海における養殖ノリの病気の防除に使用されている酸に替わって、細菌の分解酵素を用いた新しい防除方法の可能性についても講義した。

◆講座の最終回に実施したアンケート調査結果(一部)は次のとおり(21名から回答)。

1. 今回の講座を知ったのは
 - ①短大のホームページ 2名
 - ②新聞 7名
 - ③ポスター 3名
 - ④知人から 2名
 - ⑤県短からのお知らせ 7名
2. 今回の講座は
 - ①よかった 20名
 - ②ふつう 1名
 - ③よくなかった 0名

3. 自由意見(原文のまま)

- *鹿児島県をもっともっと魅力ある県として、広めるために官学連携して行っていることを沢山講義で行って欲しいと思います。今回の食に関するテーマはとても良かったです。ありがとうございました。
- *身近な農産物、畜産物、水産物を通して環境問題などに関しての知識を得ることができて有意義でした。
- *農業と関わる仕事をしているので、今回の講座はとても興味深かったです。鹿児島県の食材の特徴や輸出入のこと等楽しく勉強することができました。ありがとうございました。
- *もっと受講生が増えると良いと思いました。
- *「食料と環境」興味のあるテーマでした。ダンボールコンポスト(プラスチック箱)は早速やってみています。お茶や海草、魚の事も勉強になりました。地球規模のお話に感動します。ありがとうございました。ノリ養殖・生産する方には病気が発生したり大変なんだとわかりました。大学の研究はむづかしかったです。
- *講師の方々皆さん熱心で資料、内容共に充実したすばらしい講座でした。知らないことの多さに驚き、興味も広がり、久しぶりに学ぶたのしさを体験しました。研究課題に向かう先生方は実に楽しそう、生き生きとされ刺激を受けました。感謝。最後の回で、人間の食料のために自然を改良、養殖、環境を変えて生産、消費し続ける現実を認識。

2018年度 鹿児島県立短期大学 奄美サテライト講座 生活科学科 坂上 ちえ子

2018年度は、9月22日に沖永良部、11月24日に喜界島の2会場で開催された。日時や講師名、テーマ、参加者数は表の通りであった。当初の計画では、喜界島は9月29日に行われる予定であったが、台風接近のため2か月ほど延期となった。農業繁忙期の開催となったが、ポスターやチラシ、地元新聞社、役場の協力を得て、多くの方に参加していただけた。

平成30年度 奄美サテライト講座 実施結果
沖永良部会場 9月22日(土)(知名町立中央公民館)

時間	講師名(所属)	テーマ	参加者数
午前の部 10:00~12:00	岡田 登 (商経学科)	鹿児島の農業と食の展開	19名
午後の部 13:30~15:30	倉重 賢治 (商経学科)	統計データとの付き合い方	10名

喜界島会場 11月24日(土)(喜界町役場コミュニティホール)

時間	講師名(所属)	テーマ	参加者数
午前の部 10:00~12:00	楊 虹 (文学科)	日本人と中国人の感情表現:映画・ドラマからソーシャルメディアまで	42名
午後の部 13:30~15:30	田口 康明 (商経学科)	日本の教育、世界の教育。鹿児島島の教育、そしてちょっとだけ奄美の教育	71名

講義概要

岡田 登(9月22日 沖永良部会場)

会場の沖永良部島では県内の離島のなかでも特に農業生産額が高く、近年ではバレイシヨの生産量が増加している。このため本講座では、急速に流通システムの変化が生じている野菜部門において、農家がどのように地域条件を活かしながら農業法人化を進めているのか、県内各地の事例をもとに解説した。また、地産地消の新たな展開として、全国各地で食による地域活性化の取り組みが行われているため、県内外の都市部と農村部における取り組みの事例を紹介し、その効果についても解説した。

倉重 賢治(9月22日 沖永良部会場)

統計データは、サンプルの取り方やアンケートにおける質問の仕方、データの解釈によっては、事実と異なる結果が導き出されることがあります。今回の講演では、このような例や意図的に結果を操作する方法について述べました。具体的には、マスコミ各社における世論調査結果の差が理論値よりも乖離していること、データの関連性について、見かけの相関関係が存在することで誤った因果関係を導き出す可能性に

ついてなど、いくつか例をあげて説明を行いました。

楊 虹（11月24日 喜界島会場）

中国人と日本人の感情表出の仕方の違いを、感動詞や形容詞、終助詞など感覚、感情を表現することばの使い方の比較、及び会話の展開の仕方の比較を通して、説明しました。SNSを利用した会話の特徴を分析し、会話を楽しむよりも、スピーディーな目的達成のための情報交換のやり取りが優先される中国語と、気持ちを伝え合いながら会話を楽しむことが優先される日本語、という日中の異なるコミュニケーションのスタイルを示した。

アンケート結果（2会場：回答数95）

- (1) 男女
男・52名、女・43名
- (2) 年齢
10歳代・0名、20歳代・4名、
30歳代・9名、40歳代・16名、
50歳代・11名、60歳以上・55名
- (3) 講座を知ったのは（複数回答）
県短 HP・4名、新聞・1名、
ポスター・28名、チラシ・6名、
知人・37名、その他・11名、未記入・8名
- (4) 講座の評価
良かった・65名、普通・20名、
良くなかった・0名、未記入・10名
- (5) テーマの評価
良かった・70名、普通・17名、
良くなかった・1名、未記入・7名
- (6) 開催時期
良かった・77名、
良くなかった・7名、未記入・11名
- (7) 講義回数
良かった・74名、多すぎた・2名、
少なすぎた・0名、未記入・19名
- (8) 自由意見（一部抜粋）
 - ・国際理解を深めることができた
 - ・自国と中国の文化を知ることができた
 - ・映画などの媒体を使ったのが良かった
 - ・日本の教育制度について理解ができた
 - ・喜界島にゆかりのある先生で、身近に感じ誇りに思いました
 - ・著名な先生方の緻密な研究成果や研究の仕方等を知ることができ、久々の知的興奮の時間でした

- ・もっと若い人に聞いてほしいです
- ・9月下旬から10月上旬は運動会が多いため少しずらしてほしい
- ・農業のあり方（移り変わり）を理解することができた
- ・農業がこれほどまでに我々の生活に関わり、豊かにしてくれることを再認識することができた
- ・すばらしいサテライト講座ありがとうございました。このような機会を今後ともよろしくお願いします

(9) 希望するテーマ（一部抜粋）

- ・地域の振興について
- ・経済学、奄美群島の成り立ち
- ・教育のグローバル化について
- ・日本語のルーツ
- ・奄美と日本本土の比較について

2018年度伊敷公民館講座 生き生きシニア大学
文学科 轟 義昭

2018（平成30）年度伊敷公民館講座「生き生きシニア大学」は、本学の文学科、生活科学科、商経学科の教員が講師を担当し、10月10日から12月5日まで、計8回にわたり実施された。受講生の登録数は29名で、延べ受講者数は189名であった。各回の講座終了後、受講生が書いたアンケートは、教務課または次回の担当教員を経由して、講座担当者に渡されている。「各専門の講師の話の直接受講できて、たいへん興味深く、今後の生活に活かしていきたいと思いました。」「いろんな分野の話しでしげきを受けました。」「昨年も受講しましたが、今回の講座はそれよりも程度が高く、専門的で難しかった。もっと手近な話題で教えてほしいと思いました。」「全ての講座で学んだことを、残りの人生を豊かにし、特にAIとIoTとの関係が楽しいでした。」（すべて原文のまま）のようなコメントを受け取り、概ね好評だった。

以下では、各回の担当者とテーマ、講座の概要および講師陣のコメントを掲載する。

各講座の担当者とテーマ

回	実施日	担当者（所属）	テーマ
1	10/10	田口康明	道徳教育は子どもの道徳を向上させるか
2	10/17	亀井勇統	海の生き物からの宝もの探し
3	10/24	轟義昭	映画から学ぶ英詩 英詩から考える映画 —シェイクスピアの詩—
4	10/31	山本敬生	精神的自由権
5	11/7	木戸裕子	菅原道真と漢詩—日常生活を読む—
6	11/14	木戸裕子	薩摩郷土の漢詩—垂邑詩集—
7	11/21	岡村俊彦	AIとIoTとビッグデータの甘い三角関係
8	12/5	大松伸洋	芸術論：見る視点を変えれば世界が変わる —美術作品から見る表現の可能性—

第1回 田口 康明

【概要】

今年度（2018年）から小学校において、次年度（2019年）から中学校において、「特別の教科『道徳』」が実施される。道徳教育はこれまでも小中学校で実施されていたが、「教科」として行われる。そのねらいと内容、問題点について解説した。

【コメント】

受講生の年齢層から道徳教育の強化に関しては積極的な人が多いのかと思っていたが、「恒産なくして恒心なし」の言葉にあるように、社会状況が問題に先行していることを理解されたように思う。

第2回 亀井 勇統

【概要】

これまで言い伝え等によって歴史的に使用されていた柳の樹液の鎮痛効果を例にして、実際

に柳の樹液から抽出され、解熱剤アスピリンや鎮痛剤サロメチールとして開発されたアセチルサルチル酸を例に、伝承の意義や天然物の薬理効果を解説した。また、同様にしてグリーンランドの疫学調査によって発見、開発された魚に含まれる脂肪酸、エイコサペンタエン酸やドコサヘキサエン酸による血中脂質の低下作用や血圧低下作用等の種々の薬理効果を紹介すると共に、その他の海の生き物から発見、開発されてきた種々の有用物質等も紹介して、海の生き物からの医薬品や化粧品等への開発の可能性について講義した。

【コメント】

受講者が60歳前後の方達であったためか、血圧等の病気に関連する薬の開発や開発法の実例に興味を持って受講しており、講義中にあちこちから受講者の感嘆の声が聞こえてきて、講義にやりがいを感じました。

第3回 轟 義昭

【概要】

映画『恋におちたシェイクスピア』を鑑賞した者にとって、トマスに扮したヴァイオラがシェイクスピアからの手紙を読むシーンは映画のなかの単なる1コマかもしれない。だが、彼女が発した3行の台詞が「ソネット」18番であると分かると、文学の視点から映画の結末を考えることができることを解説した。また『いつか晴れた日に』に利用された「ソネット」116番の5行は原作にはなく、映画で脚色されたものである。116番で言われる「真実なる心と心」の結婚とは何かを考えながら映画を観賞すると、主人公マリアンヌの愛に対して新たな見方が広がることを解説した。

【コメント】

講演終了後、2012（平成24）年の私の講座にも参加された受講生が来られて「難しかったが、勉強になりました。」という感想を述べられ、嬉しく思いホッとしました。

第4回 山本 敬生

【概要】

精神的自由権とは精神活動の自由を意味し、日本国憲法では思想・良心の自由、信教の自由、表現の自由、学問の自由という形で保障している。思想・良心の自由は、思想・良心の強要の禁止、思想・良心を理由とする不利益取扱いの禁止、沈黙の自由を内容としている。信教の自由は宗教的確信の自由、宗教的儀式の自由、布教の自由から成り立つ。政教分離の原則とは、国家が特定の宗教と結びつくことを禁止し、信教の自由を制度的に保障する原則のことである。政教分離の根拠として、信教の自由の保障、政府の腐敗防止、宗教の墮落防止があげられる。政教分離の原則は、国が宗教的活動をしたり、宗教団体に対しても特恵的取扱いをすることを禁止している。学問の自由は、研究の自由、研究成果の発表の自由、教授の自由が内容である。大学の自治は、教員人事の自治、施設管理の自治、学生管理の自治から形成されている。以上を最高裁判例、学説を踏まえて、詳細に解説した。

【コメント】

受講生のみなさんが真剣に聴いてくださり、さわやかに講義することができた。ただ、今回はドイツの最新の議論を紹介したり、判例を詳しく解説したため、難解過ぎて一部の受講生に

は理解しにくかったようだ。この点を反省し、次回はわかりやすく講義を心がけたい。

第5回 木戸 裕子

【概要】

現代社会では、漢詩を読む機会はほとんどない。しかしながら、平安時代から明治時代に至るまで、日本人は、和歌や俳句と同じように漢詩を作り愛好してきた。本講義では学問の神様として親しまれている、平安時代の学者・政治家でもある菅原道真の漢詩文集『菅家文草』『菅家後集』から、いくつかの漢詩を取り上げた。学問の神様として、また、謀反の讒言により太宰府に左遷された悲劇の忠臣として知られる道真だが、作品から伺える日常生活や家族への思いについて考察した。

【コメント】

漢詩には苦手意識があるが、おもしろかった、道真が身近に感じられたという受講者の感想があり、うれしかった。

第6回 木戸 裕子

【概要】

維新150周年で薩摩藩にも注目が集まっているが、垂水では垂水島津家の第10代当主島津貴澄の文化政策により郷校文行館が設立され、垂水郷士の間で漢詩が作られていたことはあまり知られていない。本講義では、島津貴澄没後に作られた垂水郷士の漢詩集『垂邑詩集』を紹介し、その中からいくつかの漢詩を取り上げた。郷士たちが唐詩を学び、その上で日本の古典を題材にした漢詩、薩摩藩の奄美・琉球支配を反映した漢詩、主君に従って江戸に赴く際の故郷への思いを詠んだ漢詩など、折に触れて詩を作っており、垂水の文事が盛んであったことを解説した。

【コメント】

受講者の中には詩吟をたしなむ人もいて、参考になったという感想をいただいた。また、郷士層の漢詩にふれて薩摩武士に対する認識を新たにしたいという感想もあり、この詩集を紹介してよかったと思う。

第7回 岡村 俊彦

【概要】

近年のICT関連で最も大きなトピックスであるAI（人工知能）とそれに関連したIoT、ビッグデータについて講演をおこなった。AIとはど

のようなもので、なぜここ数年ブームになっているか、AIに必須のビッグデータとそれを収集、活用するIoTの関係を実例とともに解説した。さらにAIが様々な分野で活用されている事例を紹介し、AIが人間の仕事を奪うかどうかの考察をおこなったのち、AIが当たり前になる近未来の予測もおこなった。

【コメント】

AIスピーカーやAIを利用したウェブサービスなど、実際に使用してみることで、最新のトピックスを実感してもらえたと思う。

第8回 大松 伸洋

【概要】

西洋美術史のゴシック美術からシュルレアリスム（超現実主義）までを年代別に解説後、現代美術の説明を行った。現代美術では、オラファー・エリアソン氏の『Weather Project』やクリスト&ジャンヌ＝クロード、オノ・ヨーコさんの地熱発電によるイマジン・ピース・タワーなどの作品群を紹介。身近に存在する「美」に目を向けるか向けないかで、大きく普段の生活が変わってくる事を美術作品を通じて解説した。

【コメント】

とても熱心に受講して頂き、解説中もメモを取るなど学習意欲が強く感じました。みなさん西洋美術に関しては観たことのある作品も中にあった様ですが、現代美術の芸術家作品はあまり観た事がなかったみたいで驚きの声も聞かれました。時間が足りないぐらい話したいことが多くて、また次回に繋げていきたいです。

■ 地域研究報告

2018年度プロジェクト研究

<共同研究プロジェクト>

中小企業における会計担当者の会計知識・技術に関する調査研究

商経学科 岡村 雄輝
商経学科 宗田 健一
鹿児島国際大学 榎部 幸子

本研究は、3年計画で鹿児島県内の中小企業における会計担当者の会計知識・技術に関する調査研究を行うことを目的としている。

2018年度は、鹿児島県内の中小企業を訪問し、会計担当者の会計知識や技術の獲得状況、獲得手段などについて調査することを企画した。具体的には、製造業を中心として、経理担当者へのインタビュー調査、アンケート項目を作成するための予備調査を行うことを企画した。

中小企業の経営者、経理担当者、工場長などを対象として複数のインタビュー調査を実施したことから、それらのパイロットデータを基礎として、インタビュー調査項目、アンケート調査項目を精査し、2019年度に県内企業の調査を進めたいと考えている。

なお、岡村は、企業の経理担当を行った経歴から、経理担当者の会計知識や技術が作成される会計情報の質や量、スピードに影響を与えることを経験的に得てきた点を踏まえて、アンケート調査項目の作成を主として担当している。宗田は、鹿児島市設置のインキュベーション施設（ソーホーかごしま）の入居者選定委員を2010年4月より務めており、これまでに新規創業者の事業計画書、資金計画書、財務諸表などを数多く評価してきた経験から、インタビュー調査項目の作成を主として担当している。榎部は、中小企業会計の制度研究、中小企業や税理士へのインタビュー調査の経験を多数有していることから、アンケート調査項目とインタビュー調査項目の双方で有益な知見を提供している。

本研究を通じて、県内中小企業に対して経営面、会計面から新たな知見を提供し、地域振興に寄与したいと考えている。

県内自治体における文化芸術支援のあり方について

—芸術サービス型 NPO・アーティストの活動実態調査を中心に—

生活科学科 西迫 貴美代
かごしまアートネットワーク理事長
丸田 真悟

本プロジェクトは、芸術活動を通じて、行政や学校（地域）との新しい関係・連携が誕生する契機・条件を導き出すことを目的とする。この地道な蓄積が「学校」-「自治体」-「芸術型NPO・アーティスト」の関係性をさらに明確にできると考えている。

研究方法として、多様なアウトリーチ活動から自治体・学校・地域と連携している芸術サービス型活動（NPOに限定しない）を抽出し、アーティストや芸術団体の支援・育成、子どもや市民を対象にしたワークショップなどのアウトリーチ活動を主に行うNPOとアーティストの活動事例を丁寧に分析する実態調査に加えて、本年度の主要な研究活動を県内アーティストへのアンケート調査を計画していた。しかし、今年度中の実施が諸事情で完了していないことを、まずお詫びすると共にご報告する。次年度継続の課題とさせていただくことをお許し頂きたい。

また市民を対象にした「からだでコミュニケーションワークショップ」（本学体育館会場）は昨年度までに8回実施してきたが、体育館工事等で日程調整が難しく中断している。広報方法を再構築し、次年度は再開させたい。重ねてお詫びいたします。

次代を担う奄美大島の若手作家たち

生活科学科 北 一浩

過去数年にわたり自身の制作活動を奄美大島にて行ってきた。その中で様々な分野の作家たちとも交流を深めてきた。現在、奄美大島では、もともと地元で活動している作家はもちろんのこと、ものづくりに関わる移住者も少なくない。

本研究では、多様な作家たちの中でも、奄美大島出身で現在も奄美大島で活動をしている作家に焦点をあて、その作品を広く世間に伝えることを目的とした。地元の作家を対象とした理由は、移住してきた作家と比べ、島外への情報発信力に関しては劣る面があり、島内だけでは販路の広がりには限界があるため、優れた作品を制作しているにも関わらず、適正な評価を受けづらい現状があるためである。

今回、奄美大島大和村にて作陶している雅工房を取り上げることとした。ほぼ独学で陶芸を学び、その造形は20世紀を代表する陶芸家であるルーシー・リーを彷彿とさせ、奄美の自然に着想を得た釉薬の表現と合わさり、他の陶芸家と一線を画す作品を制作している。作家本人は、日々の作陶を研究と語るほどストイックな活動を行なっている。販売に関しては、工房での販売に加え、島内で数カ所ほどに留まっている。

当初は、島外での展覧会を計画していたが、準備が整わず、鹿児島市内でのショップでの取り扱いにとどまった。販売の状況は好調で、来年度以降、展覧会の開催を再度計画し、今後も継続していきたい。



県短×知名町 新シマ桑プロジェクト 生活科学科 北 一浩

本研究は、鹿児島県の離島である沖永良部島の知名町役場農林課との共同プロジェクトで、現在特産品として販売しているシマ桑青汁のリブランディングをおこなったものである。

シマ桑青汁とは、古くから沖永良部島に自生している桑の葉を加工したもので、その効能から現在は健康食品として販売されている。また、民間ではなく自治体が6次産業化したという全国的にみても稀有な事例である。

現在国内では、多種多様な健康食品が販売されている。なかでも青汁製品は1000億円を超える市場となっており、今後も成長が見込まれている。市場が拡大する一方で、競争も激しく各メーカーは差別化を図る動きに拍車がかかっている。シマ桑青汁も同様の課題を抱えており、他の商品との差別化および販売促進のためパッケージデザインのリニューアルの依頼を受けた。

現状の分析を踏まえ、パッケージのリニューアルだけでは、問題の解決は難しいと判断し、商品コンセプトの変更を伴う、リブランディングを行うこととした。健康食品および青汁のカテゴリーでは、幅広いターゲット層へのリーチが困難なため、「南の島のスーパーフード」を商品コンセプトとし、ネーミングも「キセキノシマグワ」に改め、パッケージデザインでは、沖永良部島という地理的特徴も強く打ち出すものとした。今後は、販路の見直し等も含め、協働していきたい。



2018かどしまの新特産品コンクール出品の様子

鹿児島県三島村におけるコミュニティ施設の空間特性に関する研究

生活科学科 穴戸 克実

本プロジェクトでは、鹿児島県の島嶼部に暮らす住民らのコミュニティ施設について、その空間特性を明らかにすることを目的としている。昨年度夏季に予定していた初回の現地調査は、度重なる台風の影響で繰り返し延期となり、最終的に2月17～18日に実施することができた。また、今年度もゼミ学生とともに夏季調査を予定していたが、台風の影響による二度の延期を経て、規模と期間を縮小し10月24～25日に実施した。今回のプロジェクトでは、夏季に離島調査を実施することの難しさを痛感した。

二度の現地調査はいずれも硫黄島のみとなったが、多様な情報を得ることができた。集落におけるコミュニティ施設の建築形態や使用状況、港や路地空間の活用方法、掲示板や村内放送などの島内情報伝達方法、商店や通信販売による商習慣など、離島固有の魅力や課題を発見することができた。また、生活リズムや交流スタイルなどあらゆる島内活動はフェリーの発着スケジュールに基づいていることもわかった。さらに、硫黄島の来訪神（メンドン）が登場する祭りの舞台となる神社前路地（広場）に着目し空間構成について重点的に調査していたが、時を同じくしてメンドンがユネスコ無形文化遺産に登録された。

本プロジェクトの一環として、現地調査に参加したゼミ学生2名により三島村（硫黄島）の建築・集落の空間特性について卒業研究としてまとめる。さらに、調査・研究成果を活かした「まちづくり構想」を立案し卒業制作として発表する。

「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」の成立に伴う国の「特定有人国境離島地域社会維持推進交付金（仮称）」を活用した航空路運賃低廉化事業により、鹿児島県の離島へ就航する航空運賃に離島割引が導入されている。

周知の通り、鹿児島県は多くの有人離島をかかえる県でもあり、同事業による影響は多大である。ここ数年は、LCCによる奄美路線が開設されたこととともに、有人離島へのアクセスが上昇したと考えられるが、観光目的利用ではなく、生活路線としても維持されている離島路線については、同事業の影響が大きいと考えられる。

そこで本研究では、同事業が航空会社の経営にもたらす影響について考察することを目的として、離島割引カードの発行状況、搭乗者数・搭乗率の推移の変化などの分析を進めてきた。

2017年度は対象路線となっている鹿児島＝屋久島路線を分析対象としてインタビュー調査を実施した。2018年度は、鹿児島＝種子島の路線を分析対象として検討したい（2019年2月～3月に実施予定）。また、他の丘珠＝利尻、函館＝奥尻、出雲＝隠岐路線については予算の都合がつけば考察を進めたい。なお、LCCの就航に伴う影響を分析するため、パニラエアの就航路線でもある奄美大島でも調査を予定している。

申請者はこれまで地域研究所の個人プロジェクトとして、2015年度～2016年度に「鹿児島離島航空割引カードの現状と課題」、2013年度～2014年度「離島間交通機関としてのコミューター航空の研究」を進めてきた。本研究により鹿児島県内有人離島のすべての空港を訪問することができるので、研究成果としてまとめて公表をしたいと考えている。

公立高等学校における障害児の進学をどのように拡大するのか、という方向で研究を進めている。その際、入試（入検）の段階における「定数内不合格」が大きな障害となっている。昨年度の調査研究（2018年3月実施）の概要について述べる。

まずは、2017年4月に北海道立高校に入学した1年のAさん（ダウン症）の事例について、訪問調査を行った。

Aさんは、前年度実施の入選において不合格となり、2017年3月に実施された入選においても、5回不合格となり、6回目の入選において合格した。学力検査を行わない入試形態であったが、いずれの場合においても、「入学したいという意欲が感じられない」「コミュニケーションがとれない」等の理由によるものであった。

今回の訪問によって、実際の入学後の授業を参観することができた。ちょうど、定期考査の日に当たっており、読み上げ式で試験を受けるAさんは、他の生徒たちから切り離された別室受験であった。試験問題は他の生徒たちと同一で、日常からついている支援員が問題を読み上げ、解答をすすめていた。

そのほか、HRの時間、定時制であったので授業前の給食の時間などを参観し、クラス担任に普段の様子についてインタビューを行うことができた。これらの高校生活の様子について後日別途報告する。

一般的に、障害者が高校に進学した場合、特に知的な障害を伴う場合、学年間の進級が大きな問題となる。「進級の基準」をどのように満たすのかが課題である。これに対して訪問先の高校は、試験方法の検討、考査後の補習措置等での対応を検討しているとのことであった。実際、この4月の進級に向けて同様の措置がとられたとのことである。

もう一つの訪問先である、旭川市内の中学校では、知的障害（いわゆる「重度」）のあるBさんを訪問した。訪問時点で2年生のBさんは、現在3年生で高校受験を目前としている。

北海道を研究対象とするのは、本県（鹿児島県）と高校の立地条件、統廃合施策の推進、教育行政のあり方（この点は別して論考する必要がある）等の類似点が多いからである。いずれ、本県に環流する研究も進めていきたい。

■ 研究・社会活動報告

鹿児島県立短期大学教員 研究・社会活動報告一覧
2018年1月～2018年12月

野呂 忠秀 学長

学術論文

1. Effects of salinity on the growth and mucous cells of the abalone *Haliotis diversicolor* Reeve. L. A. Creencia, T. Noro, International Aquatic Research 10(3):299-301. (Sep. 2018)

報告書

1. 宮崎市漁業協同組合地先海域に設置したイセエビ礁の効果について、平成29年度調査報告書、23 pp, 国土開発コンサルタント(2018年3月)

学会活動

日本水産学会
日本水産増殖学会
国際藻類学会
日本藻類学会

社会活動

1. 内閣府沖縄総合事務局中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会委員, 2000年4月～
2. 鹿児島県水産技術開発センター研究開発推進会議・委員長, 2007年4月～
3. 鹿児島市中央卸売市場運営協議会・会長, 2007年4月～
4. 鹿児島大学経営協議会委員, 2016年4月～
5. 鹿児島大学学長選考会議・議長, 2016年4月～
6. 鹿児島県雇用・能力開発機構(ポリテクセンター鹿児島)運営協議会・座長, 2016年4月～
7. 鹿児島県育英財団評議会・議長, 2016年4月～

文学科

日本語日本文学専攻

木戸 裕子 教授

学会発表

1. 「匡衡贈答歌群に見る赤染衛門の和歌一女性と漢詩文受容」単独, 中古文学会2018年度春季大会, 日本大学文理学部, 2018年5月27日

その他出版物

1. 研究手帳「大江匡衡の晩年と杖」, 単著『和泉通信』44号, 和泉書院, 2018年6月1日 pp.3-4

学会活動

和漢比較文学会, 1986年5月～
和漢比較文学会常任理事, 2011年10月～
和漢比較文学会西部例会委員会副委員長, 2015年10月～
中古文学会, 1986年5月～
西日本国語国文学会, 1988年9月～
西日本国語国文学会常任委員, 2010年4月～2018年9月
東アジア国際文化会議, 2002年9月～
説話文学会, 2005年6月～

社会還元

1. 講師
「赤染衛門集を読む」, 金曜会(読書会), 2015年9月～
2. 講師
「菅原道真の漢詩一家族と生活を詠む」, 於: 月の船, 2018年5月12日
3. 講師
「菅原道真の漢詩一家族と生活を詠む」, 伊敷公民館講座生き生きシニア大学, 2018年11月7日,
4. 講師
「垂水郷士の漢詩一垂邑詩集」, 伊敷公民館講座生き生きシニア大学, 2018年11月14日
5. 講師
「伊勢物語と中国文学」, 読書会, 於: 鹿児島市教育センター, 2018年11月9日

社会活動

1. 2013年11月～2015年10月, 鹿児島市文化財審議会委員
2. 2015年11月～2017年10月, 鹿児島市文化財審議会委員
3. 2017年11月～2019年10月, 鹿児島市文化財審議会委員

竹本 寛秋 准教授

学術論文

1. 「中原中也を語ること／大岡信自身を語ること」, 竹本寛秋, 単著, 『中原中也研

究』第23号, 中原中也記念館, 2018年8月, pp. 43-54.

2. 「山村暮鳥『聖三稜玻璃』と句読点の消失」, 竹本寛秋, 単著, 『雲』第23号, 暮鳥会, 2018年9月, pp. 2-11.
3. 「薄田泣菫『白羊宮』における句読点の戦略」, 竹本寛秋, 単著, 『西日本国語国文学』第5号, 2018年10月, pp. 1-15.

その他出版物

1. 「大岡信の中原中也受容をめぐる」, 共著 (加藤邦彦, 竹本寛秋), 『中原中也研究』第23号, 中原中也記念館, 2018年8月, pp. 55-73.
2. 「小野孝尚著『茨城の近代詩人群像』」, 単著, 『日本近代文学』98集, 2018年5月, p. 328

学会活動

北大国語国文学会, 1996年4月～
北大国語国文学会 評議員
日本近代文学会, 1996年4月～
日本近代文学会九州支部 運営委員
日本文学協会, 1996年4月～
日本文学協会 運営委員
『日本文学』(日本文学協会), 2018年11月, 編集担当委員
日本比較文学会, 2009年4月～
昭和文学会, 1996年4月～
暮鳥会, 2007年4月～

社会還元

1. 講師
「食をめぐる文化的背景と鹿児島県の産業と食」, 教員免許状更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年7月24日
2. 講師
「近代日本の書物のカタチ」, 公民館講座, 於: 鴨池公民館, 2018年10月15日～11月12日 (隔週, 全5回)

社会活動

1. 鹿児島大学『地域政策科学研究』査読委員, 2018年9月～10月
2. 2016年4月～, 倉敷市薄田泣菫文庫調査研究会プロジェクトメンバー
3. 2018年10月10日, 鹿児島県高等学校文化連盟弁論大会審査員 (サンエールかごしま)
4. 2018年11月23日, 鹿児島県高等学校弁論大会審査員 (鹿児島県教職員互助組合会館)
5. 2018年12月8日, 全九州高等学校総合文化祭弁論大会審査員 (サンエールかごしま)

土肥 克己 教授

社会還元

1. 講師
「漢字へのこだわり」, 出張講義, 於: 明桜館高校, 2018年7月3日
2. 講師
「中華料理の極致 満漢全席」, 教員免許更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年7月24日
3. 異文化研修引率
異文化コミュニケーション (中国語), 中国, 2018年3月3日～14日, 参加人数12名

楊 虹 准教授

学術論文

1. 楊虹・佐々木泰子・倉田芳弥・加納なおみ・船戸はるな, メッセージングアプリを利用したチャットの会話の中日比較, 『日語教育と日本学研究—大学日語教育研究国際検討会論文集 (2017)』華東理工大学出版社 pp. 112-118
2. 楊虹, 映画における感情表出の感動詞の日中比較『人文』第42号, pp. 25-34

学会発表

1. 楊虹・佐々木泰子・倉田芳弥, メッセージングアプリを利用したチャットの会話における感動詞「あ」の分析, 日本語教育・日本学研究国際シンポジウム2018, 於中国上海・同濟大学, 2018年5月12日
2. 楊虹, 初対面会話における感動詞「へー」「えー」と「唉“ai”」「哎呀“aiya”」の比較, 日本語教育国際大会 ICJLE2018, 於イタリアヴェネツィア・ヴェネツィア大学, 2018年8月4日

学会活動

社会言語科学会, 2015年4月～, 学会誌編集委員

社会活動

1. 「日本人と中国人の感情表現—映画・ドラマからソーシャルメディアまで」, 鹿児島県立短期大学公開講座奄美サテライト講座, 於: 喜界島, 2018年11月24日
2. 学術講演会: 多文化共生をめざした日本語教員養成プロジェクト学術講演会「接触場面におけるコミュニケーションを考える—日・中・韓対照語用論の観点から—」, 選好される言語形式からみる日中のコミュニケーションの志向性—共感構築と情報交換

一」，於：京都・立命館大学衣笠キャンパス，2018年12月22日

英語英文学専攻

石井 英里子 准教授

学会発表

1. 「A Study of Recommended Tourist Spot Information Extraction Using SNS」，共同，(○ Yuko HOSHINO, ○ Eriko ISHII, Mit-suho YAMADA)，ICTR 2018 International Conference on Tourism Research，於：JAMK University of Applied Sciences, Jyväskylä, Finland, 2018年3月22-23日, Proceedings of International Conference on Tourism Research, pp. 259-262.
2. 「SNS を利用した観光地域における話題スポットの抽出」，共同，(○柴田健太郎，星野祐子，山田光穂，石井英里子)，第13回パーソナルコンピュータ利用技術大会全国大会，於：慶応義塾大学日吉キャンパス，2018年12月14日。

学会活動

TESOL International Association, 2008年3月～
多文化関係学会，2010年4月～ 査読委員 (2017年6月～)
全国英語教育学会，2018年9月～
九州英語教育学会，2018年9月～
メディア外国語教育学会 (LET)，2018年9月～
大学英語教育学会，2018年9月～

社会還元

1. 講師
「異文化コミュニケーションで求められる能力とは？」，出張講義，於：鹿児島県立武岡台高校，2018年6月30日
2. 講師
「英語で表現する楽しさを体験しよう！」，出張講義，於：鹿児島県立沖永良部高校，2018年8月28日
3. 共同研究者
授業研究会，於：鹿児島市立玉江小学校，2018年7月14日
4. 講師
「小学校3年生からの外国語学習一変わる

ことと変わらないこと一」，校内研修，於：鹿児島市立玉江小学校，2018年8月21日

5. 講師

「何のための外国語活動？何のための外国語科？」，校内研修，於：鹿児島市立玉江小学校，2018年11月5日

小林 朋子 准教授

社会還元

1. 講師

「片隅から世界を照らす光—映画『この世界の片隅に』をめぐって」，川内まごころ文学館シネマトーク，於：川内まごころ文学館，2018年7月22日

社会活動

1. 2018年度鹿児島大学紀要『地域政策科学研究』査読委員

学会活動

日本アメリカ文学会，2006年～
日本英文学会，2006年～
鹿児島英語英文学会，2006年～
多民族研究学会，2011年～

土持 かおり 助教

学会活動

大学英語教育学会 (JACET) 九州・沖縄支部
研究企画委員，2014年4月～
大学英語教育学会 (JACET)，1984年9月～
外国語教育メディア学会 (LET)，1984年6月～
九州英語教育学会，2002年6月～

遠峯伸一郎 教授

学会活動

日本英語学会，1995年～
近代英語協会，1997年～，同編集委員，2018年4月～

轟 義昭 教授

学術論文

1. 「イギリス文学入門：映画から学ぶ英詩英詩から考える映画」，単著，『人文』第42号 (鹿児島県立短期大学人文学会)，2018年10月，pp. 1-24.
2. 「イギリス文学入門：映画から学ぶ英詩英詩から考える映画 (2)」，単著，『鹿児島県立短期大学紀要』第69号，2018年12月，pp. 1-23.

社会還元

1. 講師

「映画から学ぶ英詩 英詩から考える映画—シェイクスピアの詩—」, 伊敷公民館講座, 2018年10月24日

生活科学科

食物栄養専攻

有村 恵美 助教

学術論文

1. 「Effects of Diets with Different Proportions of Protein/Carbohydrate on retinal manifestations in db mice」, 共著, (○ Emi Arimura, Hideaki Okatani, Tomoaki Araki, Miharuru Ushikai, Miwa Nakakuma, Masaharu Abe, Hiroaki Kawaguchi, Hiroyuki Izumi, Masahisa Horiuchi), in vivo, 2018, 32, 265-272.

その他出版物

1. 「Association between habitual tryptophan intake and depressive symptoms in young and middle-aged women」, 共著, (○ Hitomi Suga, Keiko Asakura, Satomi Kobayashi, Masanori Nojima, Satoshi Sasaki and the Three-generation Study of Women on Diets and Health Study Group), Journal of affective disorders, 2018, 231, 44-50.

2. 「Higher dietary acid load is associated with a higher prevalence of frailty, particularly slowness/weakness and low physical activity, in elderly Japanese women」, 共著, (Yuki Kataya, Kentaro Murakami, Satomi Kobayashi, Hitomi Suga, Satoshi Sasaki, the Three-generation Study of Women on Diets and Health Study Group), European Journal of Nutrition, 2018, 57(4), 1639-1650.

学会発表

1. 「高齢者栄養評価における窒素出納の問題点と有用性」, 共同, (○中熊美和, 大久保由梨, 吉川好美, 有村恵美, 牛飼美晴, 萩原隆二, 高田昌実, 堀内正久), 平成29年度第3回鹿児島県栄養士会研修会,

於: 鹿児島女子短期大学, 2018年2月4日, 平成29年度第3回鹿児島県栄養士資料集, p. 41

2. 「職場健診における尿たんぱく定性検査と定量検査の比較」, 共同, (○池田加奈子, 中村政敏, 佐藤香奈子, 石井千佳子, 舞木公子, 阿部正治, 有村恵美, 政元いずみ, 桶谷薫, 橋口照人, 堀内正久), 第11回鹿児島大学桜ヶ丘地区基礎系研究発表会, 於: 鹿児島大学, 2018年3月11日
3. 「職域健診における尿たんぱく検査精度の検討」, 共同, (○池田加奈子, 中村政敏, 佐藤香奈子, 石井千佳子, 舞木公子, 阿部正治, 有村恵美, 政元いずみ, 桶谷薫, 橋口照人, 堀内正久), 第91回日本産業衛生学会, 於: 熊本市国際交流会館, 2018年5月16~19日, 第91回日本産業衛生学会講演集, p. 518
4. 「職域健診における尿たんぱく検査の検討」, 共同, (○阿部正治, 池田加奈子, 政元いずみ, 石井千佳子, 有村恵美, 桶谷薫, 橋口照人, 堀内正久), 第48回日本腎臓病学会西部学術大会, 於: 徳島県文化会館, 2018年9月28-29日, 第48回日本腎臓病学会西部学術大会講演集, p. 770
5. 「糖尿病腎症食事療法における意義と課題~透析導入遅延を目指して~」, 共同, (○有村恵美, 堀内 正久), 第30回日本糖尿病性腎症研究会, 於: 都市センターホテル, 2018年12月1~2日, 第30回日本糖尿病性腎症研究会講演集, p. 36
6. 「食事たんぱく質・炭水化物含有比が腎機能・窒素代謝に及ぼす影響」, 共同, (○有村恵美, 阿部正治, 牛飼美晴, 川口博明, 堀内正久), 第30回日本糖尿病性腎症研究会, 於: 都市センターホテル, 2018年12月1~2日, 第30回日本糖尿病性腎症研究会講演集, p. 44

その他

1. 研究代表, 科学研究費基盤研究(C) 日本学術振興会「鹿児島市CKD予防ネットワークを活用した糖尿病腎症・網膜症栄養関連因子の検討」, 2018年4月~2023年3月
2. 研究分担, 科学研究費基盤研究(C) 日本学術振興会「脂肪酸代謝異常病態におけるビタミンB₁の果たす役割について」, 2018年4月~2021年3月
3. 受託研究, 鹿児島県「健康かごしま21中間

- 評価に係る受託研究」, 2018年1月～12月
- 共同研究, 日本腎栄養代謝研究会臨床研究「慢性腎臓病患者のたんぱく質制限食が腎機能低下抑制に及ぼす効果についての多施設研究」, 2018年9月～

学会活動

- 日本病態栄養学会, 2002年6月～
日本糖尿病・妊娠学会, 2004年12月～
日本腎臓学会, 2006年9月～
日本糖尿病学会, 2007年5月～
日本衛生学会, 2009年12月～
日本糖尿病性腎症研究会, 2009年12月～
日本CKD チーム医療研究会, 2010年10月～, 幹事 (2011年10月～)
日本糖尿病合併症学会, 2012年9月～
日本産業衛生学会, 2014年12月～
日本腎栄養代謝研究会, 2015年7月～, 幹事 (2017年7月～)

社会還元

- 指導者
「歯と口の健康週間行事における栄養相談」, 栄養相談, 於: 山形屋, 2018年6月2日
- 指導者
栄養食事指導, 於: 上ノ町・加治屋クリニック, 2018年1～12月
- 講師
「食のパワー～考えながら食べる」, 出張講義, 於: 鹿児島県立明桜館高等学校, 2018年7月3日
- 講師
「栄養士の魅力」, 出張講義, 於: 鹿児島県立鹿児島水産高等学校, 2018年7月11日
- 講師
「Dream」, キャリアデザイン, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年7月25日
- 講師
「栄養管理」, 平成30年度栄養教諭ステップアップ研修 (5年経験者研修, 於: 鹿児島県総合教育センター, 2018年8月8日)
- 講師
「かつおの魅力～栄養と健康～」, COC+ 公開講座, 於: 鹿児島大学, 2018年9月14日
- 講師
「高齢者CKDの栄養食事指導」, CKD連携 in よしの, 於: 鹿児島県民交流センター, 2018年12月4日
- 審査委員

第14回森のごちそうコンクール審査員 (鹿児島県, 鹿児島県竹産業振興会連合会, 鹿児島県椎茸農業協同組合) (書類審査: 鹿児島県庁) 2018年10月15日, (実演審査: 今村ライセンスアカデミー) 11月10日

10. 交流授業

「ヨーグルトとチーズの加工食品製造と衛生管理」, 鹿児島大学獣医学部交流授業, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年2月22日

11. 学生引率・イベント協力

鹿児島市世界腎臓病デーイベント「世界腎臓デー in かがしま」, 於: イオンモール鹿児島, 2018年2月25日

12. 学生引率・イベント協力

COC+ 公開講座2018「食と観光で鹿児島の魅力アップを考える」, 於: 鹿児島大学, 2018年9月14日

社会活動

- 2013年7月～, 鹿児島市慢性腎疾患 (CKD) 予防ネットワーク事業オブザーバー
- 2013年12月～, 鹿児島市CKD手帳・世界腎臓デーワーキング委員

木下 朋美 助教

著書

- 日本調理科学会編『別冊うかたま 伝え継ぐ日本の家庭料理 小麦・いも 豆のおやつ』, 農文協, 共著 (日本調理科学会「伝え継ぐ日本の家庭料理」著作委員一同), 2018年6月, 128総頁, 担当: ふくれがし, pp. 48-49

学術論文

- 「品種の異なる緑茶の香り特性の官能評価」, 単著 (○木下朋美), 『香料』, No. 279, 2018年9月, pp. 75-80

学会発表

- 「種子島産緑茶香気の官能評価」, 単独, 日本家政学会第70回大会, 於: 日本女子大学, 2018年5月27日, 日本家政学会第70回大会研究発表要旨集, p. 124
- 「鹿児島県の家庭料理 主菜の特徴 主菜の主材料から見える地域性」, 共同, (○森中房枝, 木之下道子, 山下三香子, 木下朋美, 他9名), 日本調理科学会平成30年度大会, 武庫川女子大学, 2018年8月30～8月31日, 日本調理科学会平成30年度大会研究発表要旨集 p. 100

その他（研究助成等）

1. 受託研究，鹿児島県「健康かごしま21中間評価に係る受託研究」，2018年1月～12月

学会活動

- 日本家政学会，2000年4月～2003年3月，2005年4月～
- 日本食品科学工学会，2000年4月～2003年3月，2013年4月～
- 日本調理科学会，2002年4月～2003年3月，2013年9月～
- 日本茶業学会，2002年4月～
- 鹿児島県茶業技術協会，2005年4月～
- 日本官能評価学会，2006年4月～
- 茶学術研究会，2006年4月～

社会還元

1. 講師
「食のスペシャリストになろう」，出張講義，於：鹿児島県立水産高校，2018年7月11日
2. 講師
「輸出拡大を目指す鹿児島茶」，鹿児島県立短期大学公開講座「食糧と環境」第3回，於：鹿児島県立短期大学，2018年5月12日
3. 講師
「ナンと！お茶入り夏ドライカレー」，かごしま環境未来館主催学習講座，於：かごしま環境未来館，2018年5月19日

社会活動

1. 2005年4月～現在，NPO 現代喫茶人の会，理事
2. 2013年4月～現在，お茶料理研究会，世話人
3. 2016年10月～現在，鹿児島県茶業会議所，かごしま茶販路拡大対策等活動助成
4. 2017年6月～現在，かごしま黒茶研究会，会員

多田 司 助教

学術論文

1. 「ブロイラー初生ヒナへの飼料給与の開始日齢が鶏肉の脂質過酸化，ドリップ量，肉色，低分子代謝産物濃度，および味認識装置により測定された味覚特性に及ぼす影響」，共著（○井尻大地，宝蔵直樹，島元紗希，川口真奈，古川愛理，多田司，友永省三，中島一喜，大塚彰），『日本畜産学会報』，89巻，2号，2018年5月，pp. 191-198.

学会活動

- 日本栄養・食糧学会，1996年4月～
- 日本生理学会，1997年4月～
- 日本農芸化学会，1998年4月～
- 日本畜産学会，2003年3月～

社会還元

1. 講師
「かごしま黒豚”ってどんな豚肉？-輸入・国産豚（白豚）とかごしま黒豚の肉質の違い-」，鹿児島県立短期大学公開講座「食料と環境」第4回，於：鹿児島県立短期大学，2018年5月19日
2. 講師
「食育の最新情報」，平成30年度教員免許更新講習「食育の最新情報，食に関する指導ならびに衛生管理の実際」講義1，於：鹿児島県立短期大学，2018年7月27日
3. 講師
「メリット，デメリットを知ろう！食品添加物」，平成29年度かごしま環境未来館学習講座，於：かごしま環境未来館，平成30年10月25日
4. 講師
「部活動生のための栄養学講座」，於：鹿児島県立鶴丸高等学校，平成30年12月16日

中熊 美和 助教

学術論文

1. 「Effects of Diets with Different Proportions of Protein/Carbohydrate on Retinal Manifestations in db Mice.」，共著（○Emi Arimura, Hideaki Okatani, Tomoaki Araki, Mihar Ushikai, Miwa Nakakuma, 他 全9名），「in vivo」，32(2), 2018 Mar-Apr, pp. 265-272

学会活動

- 日本病態栄養学会，2012年～
- 日本静脈経腸栄養学会，2014年～
- 日本栄養経営実践協会，2016年～
- 日本スポーツ栄養学会，2016年～
- 日本給食経営管理学会，2016年～

社会還元

1. 講師
「高齢者栄養評価における窒素出納の問題点と有用性」，平成29年度第3回鹿児島県栄養士会研修会研究発表，於：鹿児島女子短期大学，2018年2月4日

2. 講師
「今後の給食管理と食育のための最新事情 講義4：衛生管理」, 平成30年度栄養教諭更新講習, 於：鹿児島県立短期大学, 2018年7月27日
3. 講師
「食と健康について」, 鹿児島国際大学地域連携企画, 於：鹿児島国際大学, 2018年9月29日
4. 講師
「鹿児島の料理と栄養」, 鹿児島国際大学地域連携企画, 於：桜島 café しらはま, 2018年10月6日
5. 講師
「わかる！活かせる！！スポーツ栄養セミナー～スポーツジュニアに不足しがちな栄養素を摂ろう～」, 鹿児島県栄養士会 スポーツ栄養部会, 於：鹿児島市鴨池公民館, 2018年11月18日

社会活動

1. 2015年10月～, 玉昌会 高田病院 給食管理・栄養管理アドバイザー
2. 2016年4月～, 内閣府食品安全モニター
3. 2018年2月25日, 鹿児島市世界腎臓病デーイベント
4. 2018年6月～, 鹿児島市食品衛生懇談会
5. 2018年11月30日, 鹿児島国際大学販売会「花母(かぼ)ちゃんタルト」
6. 2018年12月1日, 第4回食育フェスタ in 鹿児島「花母(かぼ)ちゃんタルト」販売「粘土でデザート作り」(鹿児島国際大学との共同出展)
7. 2018年12月9日, クリスマス・イベント in あくね駅前「花母(かぼ)ちゃんタルト」販売

その他(研究助成等)

1. 受託研究, 鹿児島県「健康かごしま21中間評価に係る受託研究」, 2018年1月～12月

西迫 貴美代 講師

その他(研究協力)

1. 「吉田先生の評価の観点・ここがポイント」, (○吉田隆「授業づくり・学校づくりと評価基準表―成績契約と評価の明細表」), 季刊雑誌『たのしい体育・スポーツ』, No. 308, 2018年夏号, p39

学会活動

日本体育学会(九州体育・スポーツ)学会,

1987年9月～

教育目標・評価学会, 2009年4月～

社会還元

1. 講師
「健康の基準を考える」, 鹿児島県立短期大学オープンキャンパスミニ講義, 2018年7月21日
2. 講師
第69次教育研究集会 保健・体育分科会共同研究および全国大会実践レポート執筆支援, 鹿児島県教職員組合主催, 於：鹿児島市吉野中学校, 2018年11月3～4日, 10～11日

社会活動

1. 2018年6月～2019年3月, 鹿児島市スポーツ推進審議会委員
2. 2010年5月～現在, NPO 法人かごしまアートネットワーク理事(副理事長)
3. 2010年10月～現在, 学校体育研究同志会 鹿児島支部事務局長

町田 和恵 教授

学術論文

1. 「日本人の食事摂取基準2015年版を活用した霧島・始良・伊佐地域における保育所給食の栄養管理」, 共著(○町田和恵, 下入佐智美), 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』, 第49号, 2018年3月, pp. 47-55

学会発表

1. 「鯨肉レトルトカレー商品開発と六次産業化」について, 共同, (○西田由江, 野村恵子, 青木美樹子, 森園由香, 町田和恵, 油田幸子), 第37回食事療法学会, ポスター発表, 於：沖縄県男女共同参画センター, 2018年3月3日
2. 「保育所給食の給与栄養目標量と実施給与栄養量の実態」, 共同, (○町田和恵, 下入佐智美), 第37回食事療法学会, ポスター発表, 於：沖縄県男女共同参画センター, 2018年3月4日
3. 「地域連携のための栄養管理標準化の検討」, 第37回食事療法学会, ポスター発表, 共同(○森園由香, 野村恵子, 奥珠美, 西田由江, 町田和恵, 油田幸子), 於：沖縄県男女共同参画センター, 2018年3月4日

学会活動

日本栄養改善学会, 1982年4月～

日本農芸化学会, 2000年4月～
日本栄養・食糧学会, 2002年10月～
日本咀嚼学会, 2007年3月～

社会還元

1. 講師

「不足しがちなカルシウム・鉄を含む保育園の給食」, 始良・伊佐地域振興局管内給食施設連絡協議会保育所(園)部会研修会, 於:九州電力霧島営業所, 2018年9月8日

2. 講師

「食育についての基礎知識と保育園における食育計画について」平成30年度 食育・アレルギー研修会, 一般社団法人鹿児島市保育園協会, 於:鹿児島市町村自治会館, 2018年9月12日

3. 講師

「乳幼児期の肥満・やせに着目した栄養管理」給食施設従事者研修会, 鹿児島市保健所, 於:かごしま市民福祉プラザ, 2018年9月26日

社会活動

- 2015年4月～現在, 公益財団法人かごしま環境未来財団評議員

山下 三香子 准教授

著書

- 普及書日本調理科学会編『別冊うかたま 伝え継ぐ日本の家庭料理 小麦・いも 豆のおやつ』, 農文協, 共著(日本調理科学会「伝え継ぐ日本の家庭料理」著作委員一同), 2018年6月, 128総頁, 担当:鹿児島県のこっぱ, p. 98
- 普及書日本調理科学会編『別冊うかたま 伝え継ぐ日本の家庭料理 魚のおかず いわし・さばなど』, 農文協, 共著(日本調理科学会「伝え継ぐ日本の家庭料理」著作委員一同), 2018年9月, 128総頁, 担当:カツオのびんた料理, p. 49

学術論文

- 「食生活改善推進員の活動におけるソーシャル・キャピタルの醸成 食習慣, 食に関する主観的QOLと食の社会性を通して」, 共著(○山下三香子, 若林良和), 『日本食育学会』, 12巻1号, 2018)1月, pp. 9-18
- 3-Day Menu Planning for Existing Commercial Disaster Food Supplies Us-

ing the Evaluation of Taste and the Blood Sugar Level, in collaboration (○Naomi Katayama, Yukimi Okano, Yasyuyo Matufuji, Kayoko Ueji, Mikako Yamashita, Mihoko Ito), Recent Adv Food Sci Nutr Res, Published Date:09 July, pp. 38-46

その他出版物

- 「Association between habitual tryptophan intake and depressive symptoms in young and middle-aged women」, 共著, (○Hitomi Suga, Keiko Asakura, Satomi Kobayashi, Masanori Nojima, Satoshi Sasaki and the Three-generation Study of Women on Diets and Health Study Group), Journal of affective disorders, 2018, 231, 44-50.
- 「Higher dietary acid load is associated with a higher prevalence of frailty, particularly slowness/weakness and low physical activity, in elderly Japanese women」, 共著, (Yuki Kataya, Kentaro Murakami, Satomi Kobayashi, Hitomi Suga, Satoshi Sasaki, the Three-generation Study of Women on Diets and Health Study Group), European Journal of Nutrition, 2018, 57(4), 1639-1650.

学会発表

- 「鹿児島県垂水市高齢者の酢酸摂取状況と健康の関係」(口頭発表), 共同, (○叶内宏明, 山下三香子, 改元香, 窪菌琢郎, 赤崎雄一, 竹中俊宏, 桑波田聡, 郡山千早, 大石充) 第5回日本黒酢研究会, 於:早稲田大学日本橋キャンパス大ホール, 2018年6月22日 http://kurozuken.com/meeting/dl/vol5_06-1.pdf
- 「鹿児島県の家庭料理 主菜の特徴 主菜の主材料から見える地域性」(ポスター), 共同(○森中房枝, 山下三香子, 木下朋美他9名, 於:武庫川女子大学, 日本調理科学会平成30年度大会研究発表要旨集, 2018年8月31～9月1日 p. 100
- 「地域包括ケアシステムの構築に向けた地域の食の取り組み」(ポスター), ○山下三香子, 新潟コンベンションセンター, 第65回日本栄養改善学会, 2018年9月3日～5日, p. 303
- 「垂水在住高齢者(65歳以上)における食

酢および黒酢摂取状況と血圧の関係」(ポスター), 共同, (○叶内宏明, 山下三香子, 改元香), 新潟コンベンションセンター, 第65回日本栄養改善学会, 2018年9月3日～5日 p. 318

5. 「学生に対して行った防災食 備蓄状況関連のアンケート結果」(ポスター), 共同, (○上地加容子, 片山直美, 山下三香子, 松藤泰代), 第14回日本給食経営管理学会, 2018年11月24～25日 p. 54
6. 「学生に対して行った災害に対する経験と家庭における防災グッズと防災食備蓄状況アンケート結果」, 共同, (○山下三香子, 片山直美, 上地加容子, 松藤泰代), 第14回日本給食経営管理学会, 2018年11月24～25日 p. 55
7. 「学生に対して行った災害における備えについてのアンケート調査結果～食物栄養学会と子ども学科の比較～」, 共同 (○松藤泰代, 片山直美, 上地加容子, 山下三香子), 第14回日本給食経営管理学会, 2018年11月24～25日 p. 55

その他(研究協力)

1. 受託研究, 鹿児島県「健康かごしま21中間評価」, 2018年1月～12月
2. 『在宅医療・介護ケアにおける管理栄養士・栄養士教育について』, 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 分担者, 2018年～

学会活動

日本社会福祉学会, 2007年 4月～
日本栄養改善学会, 2008年 4月～
日本保健福祉学会, 2008年 4月～
鹿児島農村医学研究会, 2012年4月～
日本給食経営管理学会, 2012年9月～
日本調理科学会, 2013年 8月～
日本食育学会, 2014年 4月～
日本老年社会科学会, 2016年 6月～
地域デザイン学会, 2017年 5月～

社会還元

1. 講師
「地球温暖化・自給率・和食」, 土曜公開講座, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年6月6日
2. 講師
「栄養報告」, たるみず元気プロジェクト調査報告会, 於: 協和地区公民館, 2018年9月20日
3. 講師

「ヨーグルトとチーズの加工食品製造と衛生管理」, 鹿児島大学獣医学部交流授業, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年2月22日

社会活動

1. 2012年4月～, 鹿児島農村医学研究会, 調査研究委員会幹事
2. 2017年～, 垂水元気プロジェクト調査チーム

生活科学科

浅海 真弓 助教

その他(研究報告)

1. 「色柄布の変退色の定量的評価 — NTSC RGB 値および sRGB 値から測定した色彩情報量の比較」, 単著, 『日本家政学会 被服材料学会 部会報』, 第32号, 2018年2月, pp. 8-12

学会発表

1. 「大島紬の色彩的特徴と形態的特徴の評価」, 共同 (○浅海真弓, 森俊夫, 横田裕子), 日本繊維製品消費科学会2018年年次大会, 於: 金城学院大学, 2018年6月23～24日, 日本繊維製品消費科学会2018年年次大会・研究発表要旨, p146

学会活動

日本衣服学会, 2003年6月～
日本繊維製品消費科学会, 2004年2月～
日本家政学会, 2004年6月～
日本色彩学会, 2005年7月～
日本家政学会被服材料学会幹事, 2017年5月～, 部会役員(会計)(2017年5月～), 2018年被服材料学会夏季セミナー実行委員(会計委員)(2017年5月～2018年10月)

井余田 秀美 教授

学術論文

1. Equilibrium thickness of foam films and adsorption of ions at surfaces: Water and aqueous solutions of sodium chloride, hydrochloric acid, and sodium hydroxide. Hidemi IYOTA, Rumen KRASSTEV, Journal of Colloid and Interface Science, submitted.

学会活動

日本化学会, 1978年4月～, 同コロイド部

会, 1978年4月～
International Association of Colloid
and Interface Scientists, 1989年4月～

川島 茂 教授

学会活動

日本建築学会
日本建築家協会

社会還元

1. 2017年12月22日～2018年1月26日, ちいさないえのけんちく展／鹿児島県立短期大学(6坪ギャラリー) 学生作品展示支援, 展示計画
2. 2018年2月1日～8日, 「生活科学専攻卒業研究作品展2018」(学内展) 学生作品展示支援, 展示計画協力
3. 2018年2月20日, 東京都立蔵前工業高校講演会「自作について」
4. 2018年2月24日～25日, 「鹿児島建築学生合同設計展 Kagoshima Design Project 2018 again」(ドルフィンポート) 学生作品展示支援, 展示計画協力
5. 2018年2月27日～3月4日, 「生活科学専攻卒業研究作品展2018」(マルヤガーデンズアートギャラリー) 学生作品展示支援, 展示計画協力
6. 2018年2月28日, 日本建築家協会鹿児島支部鹿児島県立短期大学生活科学専攻空間デザイン研究室卒業制作講評会(マルヤガーデンズアートギャラリー) 企画開催
7. 2018年5月26日～27日, 第10回モノマチ(東京都台東区) ワークショップ「薔薇とコンクリート」企画開催
8. 2018年8月, コラム「煩悶のあと, 経年のさきを示す近代都市 コルビュジエとチャンディガールが築いた建築と都市」(「建築技術」2018年9月号掲載)
9. 2018年10月19日～21日, 2017かごしま住まいと建築展(かごしま県民交流センター) 学生作品展支援, 展示計画
10. 2018年12月21日～2018年1月31日, ちいさないえのけんちく展(6坪ギャラリー) 学生作品展示支援, 展示計画

北 一浩 准教授

社会還元

1. 講師

「問題解決ワークショップ」, 出張講義,
於: 国分北高校, 2018年6月30日

社会活動

1. 2014年～, 「かごしまの新特産品コンクール」工芸・生活部門審査委員
2. 2018年4月～2019年3月, 鹿児島市クリエイティブ産業育成支援検討委員

展覧会(個展)

1. Kazuhiro Kita exhibition “items”, adu. (鹿児島市), 2018年11月23日～12月6日, 染色作品展示

展覧会(招待展示)

1. S A T S U M A 城山物語2018「城山アート野外作品展」, 鹿児島市中央公園, 2018年10月6日～10月21日, 「SHIROYAMA COLORS」染色作品展示(200×1000cm, 3種)

デザイン(実務)

1. 知名町役場「キセキノシマグワ」ブランディングデザイン, アートディレクション
2. 鹿児島市立明和小学校PTA バザーロゴマークデザイン, アートディレクション

収録作品

1. Mud-dyed big India cotton 003, 単著, 『研究年報』第49号(鹿児島県立短期大学地域研究所), 2018年3月, pp. 69
2. Mud-dyed big India cotton 004, 単著, 『研究年報』第49号(鹿児島県立短期大学地域研究所), 2018年3月, pp. 70

坂上 ちえ子 教授

学会活動

日本家政学会, 1990年～
日本色彩学会, 1992年～, 関西支部役員

社会活動

1. 講師
「ファッションビジネス」, 出張講義, 於:
鹿屋女子高, 2018年12月5日

社会活動

1. 2017年2月～2019年2月, 鹿児島県伝統工芸品産業振興対策協議会委員
2. 2018年4月～2020年3月, 鹿児島市屋外広告物審議委員会委員
3. 2018年5月～2020年4月, 鹿児島県屋外広告物審議委員会委員

穴戸 克実 准教授

その他(研究協力)

1. 「The Use of Muqarnas in the Transi-

tional Zone of Domes in Egyptian Islamic Architecture: From the Fatimid to the End of the Mamluk Era], (Nako FUKAMI), Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan, 『ORIENT』, Vol. 52, 2017

その他(研究助成等)

1. 共同研究, 公益財団法人大林財団研究助成「カイロ歴史地区の資産保全と都市史再考; 建築リスト化を通じた住民の遺産意識の覚醒と建築史から紐解くカイロ史」
2. 研究代表, 鹿児島県立短期大学地域研究所個人研究プロジェクト「鹿児島県三島村におけるコミュニティ施設の空間特性に関する研究」
3. 研究代表, 科学研究費若手研究(B)「近代期イスタンブール火災保険地図でみる社交空間の立地と形態変容に関する研究」
4. 共同研究, 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究所共同利用・共同研究拠点事業「歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存: 東京大学インド史跡調査団の再評価からの中世インド建築史」
5. 研究協力, 上智大学イスラーム研究センター現代中東地域研究「中東的な〈公共〉の多元的展開と社会倫理」社会経済学班

学会活動

日本建築学会
地中海学会
日本中東学会
日本トルコ交流協会

社会還元

1. 学生作品展示支援(於: かがしま県民交流センター)「2018かごしま住まいと建築展」, 2018年10月19～21日
2. 展示協力(於: デリー国立博物館)「HERITAGE OF DELHI: CONTINUITY, CHANGE AND CONSEQUENCES OF URBANISATION」, 2018年11月16～30日

田中 真理 准教授

学術論文

1. 「通常学校における特別支援教育の現状と課題ー特別支援教育コーディネーターの活動に着目してー」, 単著, 『研究年報』第49号, 鹿児島県立短期大学地域研究所, 2018年3月, pp. 57-67.
2. 「高齢期の家事行動に夫婦関係が主観的

well-beingに与える影響ー配偶者役割の意味づけを媒介としてー」, 共著(○田中真理・鎌田晶子・秋山美栄子), 『高齢者のケアと行動科学』, 第23巻, 2018年12月, pp. 22-34.

学会発表

1. 「高齢期の夫婦関係ならびに家事行動が配偶者役割の意味づけに及ぼす影響ー夫婦のみ世帯とその他の世帯との比較ー」, 共同(○田中真理・鎌田晶子・秋山美栄子), 日本老年行動科学会第21回大会, 於: 埼玉大学, 2018年11月25日, 日本老年行動科学会第21回大会抄録集, p. 33.

学会活動

日本老年行動科学会, 2011年1月～, 常任理事, 事例検討委員会
日本老年行動科学会第21回埼玉大会大会実行委員, 2018年11月～

商経科

経済専攻

内田 昌廣 教授

社会還元

1. 講師
『『モザイク国家』インドの実像』, 出張講義, 於: 錦江湾高校, 2018年10月26日
2. 講師
『『モザイク国家』インドの秘密ー多民族・多言語・多宗教国家の苦悩と希望ー』, 鹿児島県立短期大学附属図書館 金曜講演会 第1回, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年11月2日

岡田 登 准教授

学術論文

1. 「鹿児島県沖永良部島における野菜生産法人の設立と取引先の変化」, 単著, 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』, 第49号, 2018年3月, pp. 23-36.

学会発表

1. 「鹿児島県沖永良部島における野菜生産法人の設立と取引先の変化」, 単独, 立正地理学会研究発表大会(2018年度), 於: 立正大学, 2018年6月2日.
2. 「野菜生産法人の設立とその存立要因ー

鹿児島県大崎町を事例に一」, 単独, 人文地理学会大会 (2018年度), 於: 奈良大学, 2018年11月25日.

社会還元

1. 講師

「鹿児島県の農水産業の現状と課題」, 教員免許更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2017年7月29日.

2. 講師

「鹿児島の農業と食の展開」, 鹿児島県立短期大学奄美サテライト講座, 沖永良部会場, 於: 知名町立中央公民館, 2018年9月22日.

福田 忠弘 教授

著書

1. 福田忠弘著, 『海耕記 原耕が鯉群に翔けた夢』, 筑波書房, 2018年11月, 全320頁

社会還元

1. 講師

「原耕って何した人け」, 関東枕崎会, 市ヶ谷アルカディア, 2018年10月21日

2. 新聞コラム

「もうひとつの海耕記 (上) 南洋に残る遺産」, 『南日本新聞』, 2018年11月29日12面

3. 新聞コラム

「もうひとつの海耕記 (下) 史料の「ジャングル」」, 『南日本新聞』, 2018年12月5日13面

船津 潤 准教授

学術論文

1. 「ラジャパクサ政権下のスリランカ財政 (下)」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』 第68号, 2017年12月, pp. 1-18

経営情報専攻

朝日 吉太郎 教授

学会活動

社会政策学会, 1985年～ (同学会査読専門委員2008年～)

日本経営学会, 1993年～

労務理論学会, 1993年～

社会還元

1. 講師

「すすむドイツ, おくれる日本—Industrie 4.0とイノベーションマインド—」, 特定非営利活動法人NPO 造士館講座, 「夏期集中講座」, 於: 鹿児島大学共通教育棟2号館, 2018年8月25日

2. 講師

「仕事の分化—企業社会日本と別世界のドイツ—」, 大学地域コンソーシアム鹿児島授業交流コーディネーター科目「人間と文化」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年9月10日

岡村 俊彦 教授

学会活動

日本人間工学会, 1987年4月～

日本生理心理学会, 1988年4月～

日本心理学会, 1989年10月～

社会還元

1. 講師

「エクセルの分析ツールを使った統計データの加工・分析のテクニック」, 平成30年度地方統計職員業務研修, 於: 鹿児島県青少年会館, 2018年5月25日

2. コラム執筆

「産業保健の話題 (第205回): AI, IoTと産業保健」, 鹿児島県医師会報, 第807号 2018年9月1日

3. 講師

「インターネットで覗く世界の状況」, 秋のオープンキャンパス模擬講義, 於: 鹿児島県立短期大学, 2018年11月18日

4. 講師

「AIとIoTとビッグデータの甘い三角関係」, 伊敷公民館講座いきいきシニア大学, 於: 伊敷公民館, 2018年11月21日

社会活動

1. 社会活動, 2003年4月～, 鹿児島産業保健総合支援センター 特別相談員

2. 社会活動, 2007年4月～, 鹿児島女子高等学校学外評議員

3. 社会活動, 2013年3月～, 鹿児島ラ・サール学園評議員

岡村 雄輝 准教授

学会発表

1. 「会計言語説の展開可能性」, 単独, 第38

回日本記号学会大会，於：名古屋大学，
2018年5月19，20日

学会活動

日本簿記学会，2018年8月～
日本記号学会，2017年4月～
日本会計研究学会，2013年9月～
日本会計史学会，2012年10月～
九州経済学会，2009年12月～

社会活動

1. 鹿児島県立短期大学生活協同組合 専務理事 (2018年5月まで)

倉重 賢治 教授

学術論文

1. 「Evaluation of Tourist Spots based on Pairwise Comparisons Expressed by Logarithmic Fuzzy Numbers」, 単著, 『International Journal of Japan Society for Production Management』, Vol.6, No.1, 2018年11月, pp. 57-62

学会活動

日本生産管理学会，第49回全国大会実行委員 (2018年8月～2019年3月)

社会還元

1. 講師
「確率でみる野球」, 出張講義, 於：武岡台高校, 2018年6月30日
2. 講師
「確率でみる野球」, 出張講義, 於：玉龍高校, 2018年9月13日
3. 講師
「統計データとの付き合い方」, 奄美サテライト講座, 於：沖永良部, 2018年9月22日

瀬口 毅士 准教授

学術論文

1. 「The Market Strategy of MNCs and Its Cultural Influence on Society」, 単著, 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』, 第49号, 2018年3月, pp. 9-22

学会発表

1. 「多国籍企業の市場戦略におけるカルチュラル・スタディーズの意義」, 単独, 第32回日本流通学会全国大会自由論題報告, 於：九州産業大学, 2018年10月28日

学会活動

日本経営学会，2006年9月～

日本比較経営学会，2004年9月～
多国籍企業学会，2013年5月～
日本流通学会，2014年6月～
経営史学会，2014年10月～

二部商経学科

宗田 健一 教授

著書

1. 成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく簿記』, 中央経済社, 共著, 2018年4月13日, 168総頁 (宗田担当：11 取引と勘定, 12 勘定記入の方法と取引の分解, 13 トレーニング⑤, 14 仕訳と仕訳帳, 15 トレーニング⑥ (pp. 40-59))。
2. 成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』, 中央経済社, 共著, 2018年11月30日, 170総頁 (宗田担当：21 商品の取得原価, 22 商品の払出価額の計算, 23 トレーニング③, 24 商品等の期末評価, 25 トレーニング④, 26 製品の製造原価, 27 トレーニング⑤, 28 仕掛品・製品の期末評価, 29 トレーニング⑥ (pp. 46-63))。

研究報告書

1. 水野一郎編著『中小企業会計における管理会計』(中小企業会計学会 課題研究委員会<最終報告>), 2018年9月2日, 担当箇所：第7章「中小企業の購買管理と生産管理会計：M社の事例」, 単著, 宗田健一, pp. 113-131。
2. 柴健次編著『グローバルビジネスの会計課題に関する研究』(国際会計研究学会・研究プロジェクト<最終報告>), 2018年9月8日, 担当箇所：第5章「海外進出子会社の会計行動から見える異文化会計—台湾とシンガポールを事例として」, 共著 (○ 仲尾次洋子・宗田健一), pp. 68-113。
3. 上野清貴編著『簿記における計算構造の総合的研究』(日本簿記学会 簿記理論研究部会<最終報告>), 2018年 8月24日, 担当箇所：第2部第14章「混合測定会計と簿記の計算構造」, 単著, 宗田健一。

学術論文

1. 「減価償却再考」, 共著, ○櫛部幸子・宗田健一, 『産業経理』第77巻第4号, 2018年

1月, pp. 96-107。

研究ノート

1. 「混合測定会計の現状と課題 ～取得原価基準と低価基準との関係を参考にして～」, 宗田健一, 単著, 『商経論叢』第69号, pp. 61-76。

調査報告

1. 「台湾進出企業の会計課題に関する調査報告」, 共著 (○仲尾次洋子・宗田健一), 『名桜大学総合研究』第27号, 2018年3月, pp. 137-148。

学会年報原稿

1. 「新リース会計基準における簿記処理と表示・開示」(第33回全国大会・統一論題報告), 宗田健一, 単著, 『日本簿記学会年報』(日本簿記学会学会誌編集委員会編) 第33号, 2018年8月, pp. 20-23。
2. 「中小企業会計における管理会計」(課題研究委員会 中間報告), 共著 (○水野一郎, 宗田健一, 他9名), 『中小企業会計研究』(中小企業会計学会学会誌編集委員会編) 第4号, 2018年8月, pp. 69-72。
3. 「簿記における計算構造の総合的研究」(簿記理論研究部会: 中間報告), 共著 (○上野清貴, 宗田健一, 他21名), 『日本簿記学会年報』(日本簿記学会学会誌編集委員会編) 第33号, 2018年8月, pp. 1-3。

学会発表等

1. 「中小企業会計における管理会計」, 共同 (○水野一郎, 宗田健一, 他9名), 中小企業会計学会第6回全国大会課題研究報告<最終報告>, 於 東洋大学, 2018年9月2日。
2. 「グローバルビジネスの会計課題に関する研究」, 共同 (○柴健次, 宗田健一, 他8名) 国際会計研究学会第35回研究大会研究グループ報告<最終報告>, 於 中部大学, 2018年9月8日。
3. 「簿記における計算構造の総合的研究」, 共同 (○上野清貴, 宗田健一, 他21名), 日本簿記学会第34回全国大会簿記理論研究部会報告<最終報告>, 於 西南学院大学, 2018年8月24日。

学会活動

日本会計研究学会, 2002年～現在, 会員
国際会計研究学会, 2007年～現在, 会員
一 国際会計研究学会研究グループ,
2016年4月～2018年9月, 「グローバル
ビジネスの会計課題に関する研究」

(部会員)

日本簿記学会, 2008年～現在, 会員

一 簿記理論研究部会, 2016年8月～2018年8月, 「簿記における計算構造の総合的研究」(部会員)

一 簿記理論研究部会, 2018年8月～2020年8月(予定), 「簿記講義法に関する研究～ティーチング・ティップスの作成～」(部会長)

日本会計教育学会, 2009年～現在: 会員

一 理事(事務局担当)(2017年～現在)

中小企業会計学会, 2013年～現在, 会員

一 研究(学会誌)担当幹事(2015年～現在)

一 広報(会報・HP)担当幹事(2016年～現在)

一 課題研究委員会, 2016年10月～2018年9月, 「中小企業会計における管理会計の現状と課題」(委員)

日本経営分析学会, 2015年～現在, 会員

日本管理会計学会, 2017年～現在, 会員

社会還元

1. 講師

出張講義, 於: 錦江湾高等学校, 2018年10月26日

2. 講師

出張講義, 於: 鹿屋市立女子高等学校, 2018年12月5日

社会活動

1. 日本商工会議所簿記検定試験 団体申込担当者, 2004年10月1日～現在

2. 日本商工会議所簿記検定試験 簿記初級・原価計算初級 ネット試験 試験官, 2018年7月～現在

3. 鹿児島市新規創業者等育成支援検討委員会 委員, 2010年4月1日～現在(2016年11月から委員長)

その他一競争的資金(学外)

1. 公益財団法人メルコ学術振興財団研究助成
研究課題名: 「中小企業における管理会計の導入実態と地域支援機関との協力関係に関する調査研究」, 共同研究者, 助成金交付決定番号: 研究2017009号(研究助成A), 2017年7月1日～2018年6月30日。

2. 学際的共同プロジェクト研究(名桜大学), 研究課題名: 「グローバルビジネスの会計課題に関する研究—沖縄の台湾進出企業を対象に—」, 研究分担者, 2017年度～2018

年度。

3. 総合科学研究チーム研究Ⅱ（福岡大学），研究課題名：「地方証券市場における上場企業の株価パフォーマンスと財務情報の関係性」，研究分担者，2018年度～2019年度（予定）。

その他一競争的資金（学内）

1. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「航空路線運賃低廉化事業が航空会社の経営や地域住民に与える影響に関する考察」（代表），個人研究プロジェクト，2017年度～2018年度。
2. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「中小企業における会計担当者の会計知識・技術に関する調査研究」（共同研究者），共同研究プロジェクト，2018年度～2020年度（予定），代表：岡村雄輝 准教授（鹿児島県立短期大学）。
3. 鹿児島県立短期大学地域研究学会（種村特別会員研究寄付金），「簿記講義法に関する研究」（代表者），個人研究，2018年度。

出版助成

1. 公益財団法人 メルコ学術振興財団 2018年度第一次出版助成，研究テーマ：「中小企業管理会計の理論と実践」，助成金交付決定番号：出版2018001号，代表研究者：水野一郎 教授（関西大学）。

田口 康明 教授

雑誌論文

1. 「子ども世代の政策」，『コンパス 2 1』 vol. 22所収，コンパス刊行委員会，2018年11月20日，18-28. pp

社会還元

1. 講師
「道德教育は子どもの道德を向上させるか」，伊敷公民館講座，2018年10月10日

野村 俊郎 教授

著書

1. 西岡正・目代武史・野村俊郎著『サプライチェーンのリスクマネジメントと組織能力～“熊本地震”における「モノづくり企業」の生産復旧に学ぶ』同友館，2018年9月，181総頁，担当：第4章「大規模物流網を力業で構築したアイシン」84-101頁。
2. 野村俊郎・山本肇著『トヨタの新興国適応～創発による進化～』文眞堂，2018年12月，

170総頁，担当：はじめに i - vi 頁，序章 1-34頁，第2章～終章51-159頁，おわりに 161-166頁

学術論文

1. 「大規模物流網を力業で即時構築したアイシン」，単著，『商経論叢』第69号，2018年10月，1-18頁
2. 「高価格帯と低価格帯に分化した新興市場に適應するトヨタ」，単著，『研究年報』，2018年3月，1-8頁

社会還元

1. 講師
「人工知能 AI で未来はどう変わるか」，ミニ講義，於：明桜館高校文理科学科，2018年10月16日

疋田 京子 准教授

学術論文

1. 「日本における性的マイノリティの人権保障の可能性とその課題—台湾のジェンダー平等の推進と比較して—」（単独，査読付）アジア女性交流・研究フォーラム『アジア女性研究』第27号 pp. 1-16 2018年3月
2. “Can human rights of a sexual minority in Japan be Guaranteed? A Comparison with Taiwan’s efforts for Gender Equality” Journal of Asian Women’s Studies Vol. 24 (March, 2018)

調査報告

1. アジア女性交流・研究フォーラム2016/17年度客員研究員調査報告書「アジアにおける性的マイノリティの人権と市民社会—台湾，シンガポール，日本の比較研究を中心に—」共著，2018年3月

その他（書評）

1. 「9条改憲だけで戦争する国は完成しない——生き残るための現実的可能性は「非暴力積極平和主義」中里見博他共著『右派はなぜ家族に介入したがるのか—憲法24条と9条』（大月書店）の書評，図書新聞第3371号「学術・思想」欄，2018. 10. 20

学会発表

1. アジア女性交流・研究フォーラム（KF AW）研究報告会「アジアにおける性的マイノリティの人権と市民社会：台湾，シンガポール，日本の比較研究を中心に」共同，於：北九州市立男女共同参画センター・ムーブ，3月25日（日）

2. 「ジェンダー視点から見たインドネシア民主化のパラドックス～「1974年婚姻法」違憲審査の分析を通して～」, 単独, アジア法学会2018年度学術研究会シンポジウム「アジア各国における法とジェンダー」, 於: 名古屋大学, 2018年6月24日

社会還元

1. 講師

「民主化改革期インドネシアで出会った異文化」, 金曜講演会, 於: 鹿児島県立短期大学, 11月9日

山口 祐司 講師

その他(書評)

1. 『地元経済を創りなおすー分析・診断・対策』(枝廣淳子著, 岩波新書, 2018年), 雑誌『自治研かごしま』第120号(2018年11月号), p. 34

学会発表

1. 「製薬産業の現状: ブロックバスター医薬品の持続可能性を問う」, 単独, 第33回工業経営研究学会全国大会, 於: 追手門学院大学, 2018年9月11日

社会還元

1. 講師

「日本経済のこれからを考える」, 出張講義, 於: 古仁屋高校, 2018年12月14日

山本 敬生 准教授

学術論文

1. 「申請に関する行政指導の研究」, 単著, 『自治研かごしま』第119号, 2018年6月, pp. 46-53.
2. 「租税法解釈原理の再検証ー最高裁判例を素材にしてー」, 単著, 木村弘之亮=酒井克彦編『租税法正義と国税通則法総則』, 2018年9月, pp. 435-463.
3. 「行政行為の効力発生の研究」, 単著, 『商経論叢』第69号, 2018年11月, pp. 19-38.

判例評釈

1. 「長崎市への原爆投下時に爆心地から一ニキロメートルの範囲内ではあるものの、いわゆる被爆未指定地域で生活等していた者の一部が被爆者援護法一条三号所定の「身体に原子爆弾の放射能の影響を受けるような事情の下にあった者」に該当するとされた事例ー被爆者健康手帳交付等請求事件第一審判決」, 単著, 『判例時報』第2356号,

2018年3月, pp. 153-159.

学会活動

日本公法学会, 2001年10月～現在

社会還元

1. 講師

「行政法」, 財団法人鹿児島県市町村振興協会鹿児島県市町村研修センター・平成29年度特別研修講師, 於: 鹿児島県自治研修センター, 2018年9月3日～4日

2. 講師

「憲法と地方自治」, 出張講義, 於: 錦江湾高校, 2018年10月26日

3. 講師

「精神的自由権」, 出張講義, 於: 伊敷公民館, 2018年10月31日

4. 講師

「政策法務」, 財団法人鹿児島県市町村振興協会鹿児島県市町村研修センター・平成29年度特別研修講師, 於: 鹿児島県自治研修センター, 2018年12月17日～18日

社会活動

1. 2005年3月～, 鹿児島県地方自治研究所研究理事
2. 2013年4月～, 同研究所自治体創造プロジェクト主査
3. 2017年11月～, 自治研かごしま編集長
4. 2013年5月～, 日置市情報公開審査会委員(会長)
5. 2013年4月～, 日置市個人情報保護審査会委員(会長)
6. 2013年4月～, 曾於市情報公開審査会委員(会長)
7. 2013年4月～, 曾於市個人情報保護審査会委員(会長)
8. 2013年4月～, いちき串木野市情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
9. 2013年4月～, 志布志市情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
10. 2013年4月～, 伊佐市情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
11. 2013年4月～, 十島村情報公開審査会委員(会長)
12. 2013年4月～, 十島村個人情報保護審査会委員(会長)
13. 2013年4月～, さつま町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
14. 2013年4月～, 長島町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)

15. 2013年4月～，湧水町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
16. 2013年4月～，大崎町情報公開審査会委員（会長）
17. 2013年4月～，大崎町個人情報保護審査会委員（会長）
18. 2013年4月～，東串良町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
19. 2013年4月～，錦江町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
20. 2013年4月～，南大隅町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
21. 2013年4月～，肝付町情報公開審査会委員（会長）
22. 2013年4月～，肝付町個人情報保護審査会委員（会長）
23. 2013年4月～，中種子町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
24. 2013年4月～，南種子町情報公開審査会委員（会長）
25. 2013年4月～，南種子町個人情報保護審査会委員（会長）
26. 2013年4月～，宇検村情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
27. 2013年4月～，龍郷町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
28. 2013年4月～，喜界町情報公開審査会委員（会長）
29. 2013年4月～，喜界町個人情報保護審査会委員（会長）
30. 2013年4月～，知名町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
31. 2013年4月～，与論町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
32. 2013年4月～，鹿児島県市町村総合事務組合情報公開審査会委員（会長）
33. 2013年4月～，鹿児島県市町村総合事務組合個人情報保護審査会委員（会長）
34. 2013年4月～，いちき串木野市・日置市衛生処理組合情報公開審査会委員（会長）
35. 2013年4月～，いちき串木野市・日置市衛生処理組合個人情報保護審査会委員（会長）
36. 2013年4月～，指宿南九州消防組合情報公開審査会委員（会長）
37. 2013年4月～，指宿南九州消防組合個人情報保護審査会委員（会長）
38. 2013年4月～，沖永良部与論地区広域事務組合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
39. 2013年4月～，曾於地区介護保険組合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
40. 2013年4月～，鹿児島県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
41. 2013年4月～，徳之島町情報公開審査会委員（会長）
42. 2013年4月～，徳之島町個人情報保護審査会委員（会長）
43. 2013年4月～，屋久島町情報公開審査会委員（会長）
44. 2013年4月～，屋久島町個人情報保護審査会委員（会長）
45. 2013年4月～，大和村公文書等開示審査会委員（会長）
46. 2013年4月～，大和村個人情報保護審査会委員（会長）
47. 2013年4月～，和泊町情報公開審査会委員（会長）
48. 2013年4月～，和泊町個人情報保護審査会委員（会長）
49. 2015年3月～，いちき串木野市自治基本条例推進審議会委員
50. 2015年6月～，鹿児島県後期高齢者医療広域連合特定個人情報保護評価審査会委員
51. 2017年4月～，鹿児島県市町村総合事務組合退職手当審査会委員
52. 2017年2月～，霧島市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
53. 2017年2月～，霧島市個人情報保護審議会委員（会長）
54. 2017年2月～，霧島市行政不服審査会委員（会長）
55. 2017年4月～，始良市公平委員会（委員長）
56. 2017年5月～，始良市行政不服審査会委員（会長）
57. 2018年12月～，鹿児島県全国がん登録情報有識者会議委員

『KUROSHIO』第44巻

2019年3月31日 発行

編集・発行 **鹿児島県立短期大学地域研究所**

〒890-0005

鹿児島市下伊敷一丁目52番1号

TEL: 099-220-1111

FAX: 099-803-4473

印刷所 株式会社あすなろ印刷

〒890-0041

鹿児島市城西2-2-36

TEL: 099-214-3757

FAX: 099-214-3758

KUROSHIO

